



無停電電源装置

ON LINE UPS

FU-S-LI-SY

5 kVA

取扱説明書

株式会社 NTTファシリティーズ

はじめに

このたびは、Uninterruptible Power Supply 無停電電源装置FU-S-LI-SY（以下UPSという）をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様とサービス員*1の安全を守るため、UPSの操作およびバッテリーの取り扱い、保守時などに守らなければならない重要事項が記載されています。UPSを正しく安全にご使用いただくため、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。LCDパネルの機能、操作につきましては、別冊の「LCDパネル操作説明書」をご覧ください。お読みになった後は、いつでもご覧になれる場所にLCDパネル操作説明書といっしょに保管してください。

このUPSは、温度管理された、導電性の汚染物のない環境に設置してください。

・動作温度： 0~40℃

目次

§ 1. ご使用前の.....	1
§ 2. 安全にご使用いただくためのご注意.....	2
§ 3. 正しくご使用いただくためのご注意.....	6
§ 3.1 UPSの入力電源.....	6
§ 3.2 設置時の注意.....	7
§ 3.3 取り扱い上の注意.....	7
§ 4. 包装内容の確認.....	8
§ 5. 外形寸法および各部の名称.....	9
§ 5.1 UPS.....	9
§ 5.2 LCDパネル.....	11
§ 5.3 本体操作パネル.....	12
§ 5.4 外部インタフェース部.....	13
§ 6. UPSの設置・配線.....	16
§ 6.1 UPSの設置.....	16
§ 6.1.1 設置環境を確認する.....	16
§ 6.1.2 設置スペースを確認する.....	16
§ 6.1.3 UPSを横に設置する.....	17
§ 6.1.4 UPSを縦に設置する.....	17
§ 6.1.5 UPSをラックに搭載する.....	18
§ 6.2 バッテリーパックの搭載、正面パネルの取り付け.....	19
§ 6.3 UPSの配線.....	21
§ 6.3.1 端子台タイプの配線.....	21
§ 6.3.2 プラグタイプの配線.....	23
§ 6.4 オプション機器の接続.....	24
§ 7. UPS運転前の準備.....	25
§ 7.1 UPSの設定値を確認する.....	25
§ 7.2 UPSを充電する.....	26
§ 7.3 UPSの停電動作テストをする.....	27

※1 サービス員について

当社および当社から委託された本製品の知識を有するサービス技術員を指します。
当該サービス員以外は保守作業を実施しないでください。

品名について

本書は下表のUPS用の取扱説明書です。ご使用になるUPSの品名ご確認ください。長時間バックアップ対応機をお買い上げの場合、増設バッテリーに関する項目につきましては増設バッテリーに添付されている取扱説明書をご覧ください。

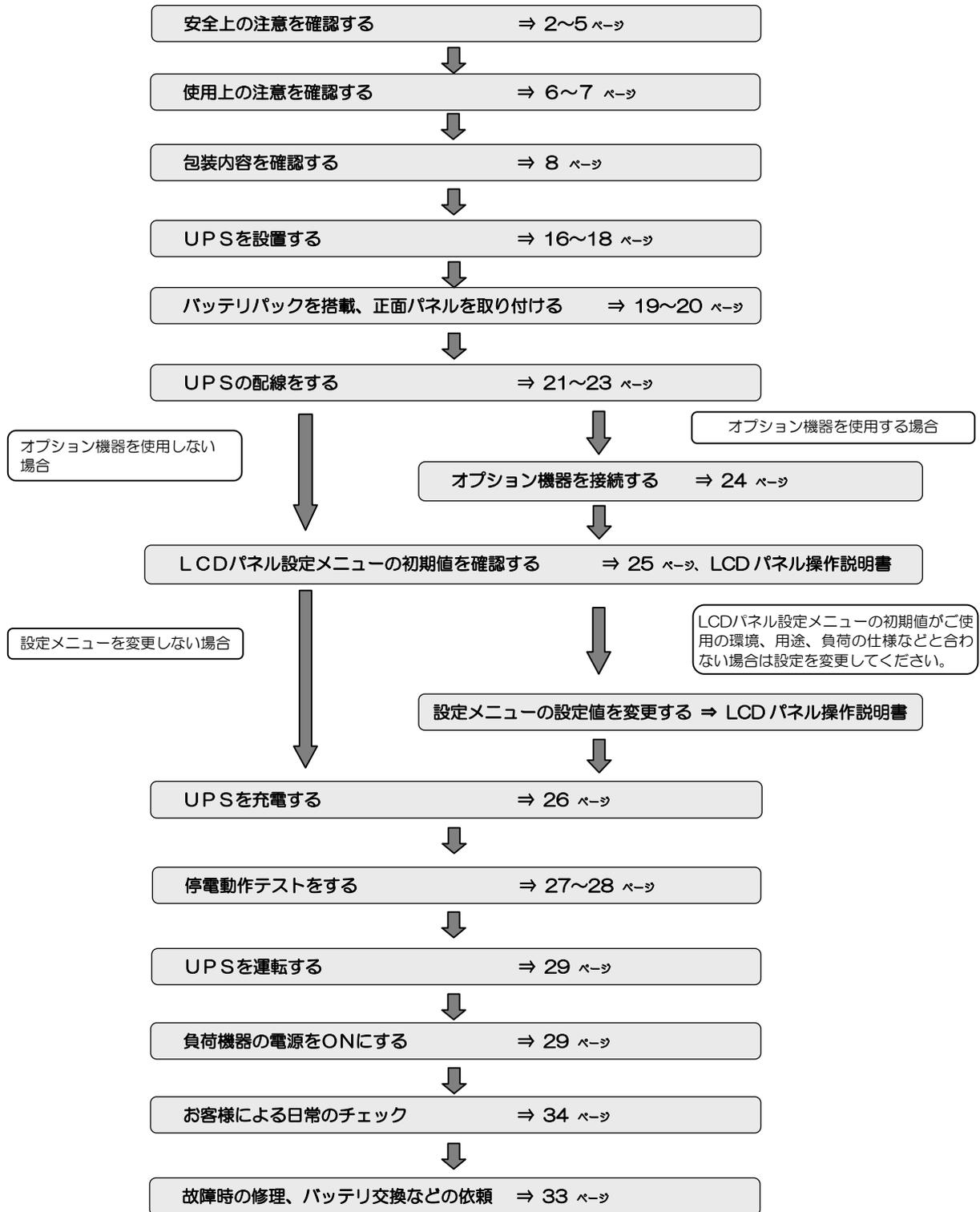
出力容量	タイプ※		カナ品名
5 kVA	端子台タイプ	FU-S5-T	FU-S5-LIM-S2S2-005-T-A-SY-UPS
	プラグタイプ	FU-S5-C	FU-S5-LIM-S2S2-005-C-A-SY-UPS

※本文中、UPSの名称は項目により上表の「端子台タイプ」「プラグタイプ」または「FU-S5-T」「FU-S5-C」のように表記されています。

§ 8. UPSの運転操作	29
§ 8.1 UPSを運転する	29
§ 8.2 UPSを停止する	31
§ 8.3 本体操作パネルで運転操作をする.....	32
§ 9. UPSの点検・保守	33
§ 9.1 お客様が実施する日常のチェック.....	34
§ 9.2 バッテリテストをする.....	34
§ 9.3 出力コンセントブレーカのリセット.....	35
§ 9.4 メインブレーカのリセット	35
§ 10. ブザーが鳴ったときは・・・	36
§ 11. こんなときには・・・	37
§ 12. UPSの特性	40
§ 12.1 基本動作	40
§ 12.2 保護動作	40
§ 12.3 保護動作表	41
§ 12.4 仕様.....	42
§ 13. UPSの保証について.....	43

§ 1. ご使用前に

UPSをご使用いただくための手順です。UPSを安全に正しくお使いいただくため、取扱説明書の手順どおりに作業してください。



§ 2. 安全にご使用いただくためのご注意

取扱説明書には、お客様とサービス員の安全を守るための重要な内容が記載されています。設置、運転、保守・点検の前に必ずこの取扱説明書をよく読み、機器の取り扱い、安全の情報そして注意事項について確認してからご使用ください。

この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「警告」「注意」として区分してあります。

表示	表示の意味
 警告	「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があること」を示します。
 注意	「誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性、または物的損害が発生する可能性があること」を示します。

なお、 注意 に記載された事項でも、状況によっては重大な結果に結びつくことがあります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

取扱説明書中の図記号は、次の意味を示します。

図記号	記号の意味
	「してはいけないこと」禁止を示します。
	「必ずしなければならないこと」指示を示します。 具体的な内容は、図記号の中、または近くの文章で示します。  : 必ずしなければいけない事項を示します。  : 必ず接地しなければいけないことを示します。
	注意（警告を含む）を示します。 具体的な内容は、図記号の中、または近くの文章で示します。  : 一般的に注意する事項を示します。  : 感電する可能性がある注意を示します。  : 火災、発煙の可能性のある注意を示します。

1. 移動、輸送および移設時の注意



- 移動、輸送および移設時に転倒、落下させないでください。けがのおそれがあります。
- 取り扱いの際には、腰痛防止に心掛けてください。
- UPSを縦にして移動する場合は、側面方向に10度以上傾けないでください。10度以上傾けると、UPSが転倒し、故障、けがのおそれがあります。やむをえず、10度以上傾けて移動するときは、転倒防止対策をしてください。

2. 据え付け上の注意



- 据付工事はサービス員に依頼してください。据付工事に不備があると、感電、けが、火災のおそれがあります。
- UPSは、次のような環境での使用、保管は絶対にしないでください。
UPSの故障、損傷、劣化などによって、火災などの原因になることがあります。
 - カタログ、取扱説明書に記載の周囲環境条件から外れた高温、低温、多湿となる場所
(適切な設置環境：温度:0~40℃、相対湿度:20~90%)
 - 直射日光が当たる場所
 - ストーブなどの熱源から熱を直接受ける場所
 - 振動、衝撃の加わる場所
 - 火花が発生する機器の近傍
 - 粉塵、腐食性ガス、塩分、可燃性ガスがある場所
 - 屋外



- UPSの吸排気口はふさがらないでください。
壁などから正面20cm以上、背面15cm以上の間隔をとってUPSを設置してください。
ラックへ搭載してご使用になる場合は、換気ができるラックへUPSを搭載し、ラックおよびUPSの吸排気口はふさがらないでください。吸排気口をふさぐとUPSの内部温度が上昇し、バッテリーなどの劣化により火災の原因になることがあります。保守する際に、正面1m以上、背面50cm以上のメンテナンススペースがとれるようにしてください。



- UPS周辺の換気をしてください。換気量は右表のとおりです。
指定の換気量が確保されないと充電時バッテリーから発生するガスにより容器の破裂または爆発の原因になることがあります。

UPS	換気量(m ³ /h)
端子台タイプ	7
プラグタイプ	7



- 据え付けは、UPSの質量に耐える場所に取扱説明書のとおりに行ってください。
UPSの質量は§5.1の表のとおりです。据え付けに不備があると、UPSの転倒などによりけがのおそれがあります。また、取り扱いには、腰痛防止に心掛けてください。
- 梱包のポリ袋やフィルム類、添付品のねじ類は幼児の手の届かない場所に移してください。小さいお子様がフィルム類をかぶったり、ねじなどをのみ込んだりすると、呼吸を妨げる危険性があります。
- プラグタイプUPSは、コンセントの近くに設置し、容易にプラグを抜き差しできるようにしてください。

3. 配線上の注意



- 配線工事はサービス員に依頼してください。
配線工事に不備があると、感電、火災の原因になることがあります。
- UPSは内部に一次回路における過電流、短絡および接地故障に対する保護手段を備えていません。
入力側に過電流短絡および接地故障に対する保護手段を備えた設備でご使用ください。
- 端子台タイプの場合は、アース線を指定の方法（入出力端子台）で確実に接続してください。
プラグタイプの場合は、確実に接地されている電源コンセントに接続してください。
本UPSはD種接地工事が必要です。アースを規定の接地種別で接続しない場合には感電のおそれがあります。
接地工事が必要な場合はその資格を有した専門業者に依頼してください。(有償)
- UPSの出力側に接続される負荷機器*のアースは、確実にアース端子へ接続してください。
負荷機器のアースを接続しない場合には、感電のおそれがあります。
※ 負荷機器・・・コンピュータなどUPSへ接続する装置



4. 使用上の注意

警告

- UPSから異臭、異音がしたとき、また故障したときは、すぐにUPSを停止してください。火災の原因になることがあります。
- UPSのカバーは開けないでください。また、オプション機器の接続時以外は、UPS背面のオプション接続部のカバーを取り外さないでください。感電、および事故のおそれがあります。



禁止

- 次のような用途には絶対に使用しないでください。
 - 人命に直接関わる医療機器などへの使用
 - 人身の損傷に至る可能性のある電車、エレベータなどの制御機器への使用
 - 社会的、公共的に重要なコンピュータシステムなどへの使用
 - これらに準ずる装置



上記負荷設備への使用に該当する場合は、事前に購入先または当社にご相談ください。

人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置などについては、システムの多重化、非常用発電設備の設置など、運用、維持、管理について特別な配慮が必要となります。

- 本UPSは、工業環境下で、専門知識のある適格者による、据付・使用および保守が必要です。それ以外の環境、例えば、専門知識のある適格者がいない家庭環境等では使用しないでください。
- UPS周辺での喫煙、火気の使用はしないでください。爆発、破損により、けが、火災のおそれがあります。
- UPSの上に花瓶など水の入った容器を置かないでください。花瓶などが転倒した場合、こぼれた水での感電、UPS内部からの火災の原因になることがあります。
- UPSの上に腰掛ける、乗る、踏み台にする、寄りかかる、ということはしないでください。UPSの転倒などで、けがのおそれがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しないでください。感電のおそれがあります。
- UPSの改造、分解、修理はしないでください。UPSの内部は高電圧箇所などがあり、サービス員以外がUPSのカバーを開けたり、バッテリー交換、修理などの保守作業をすると感電など事故の原因となります。これらの場合は保証の対象外となります。

注意

- UPSを起動する前に負荷側の安全を確認し、取扱説明書にしたがって運転操作をしてください。MAIN MCCB または ON/OFF ボタン操作によるUPSの状態は下表のとおりです。操作する場合は表示を確認し、むやみに MAIN MCCB または ON/OFF ボタンに触れないでください。不用意な給電は、感電、事故のおそれがあります。

UPS状態		出力状態	LED表示
MAIN MCCB	ON/OFF	OUTPUT	
OFF	OFF	停止	INPUT (緑) 消灯, OUTPUT (緑) 消灯
ON	OFF	停止	INPUT (緑) 点灯, OUTPUT (緑) 消灯
OFF	ON	インバータ出力	INPUT (緑) 点滅, OUTPUT (緑) 点灯
ON	ON	インバータ出力	INPUT (緑) 点灯, OUTPUT (緑) 点灯

- ファンの排気口に棒などを入れないでください。回転しているファンで、けがをするおそれがあります。
- 雷が鳴り出したら、ケーブル類も含めて本UPSに触れないでください。落雷の際に感電するおそれがあります。



5. 保守・点検上の注意

注意

- サービス員以外は、内部の点検、修理をしないでください。感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。
- UPSの修理または故障部品の交換は、購入先または当社へ依頼してください。カバーを開けると感電、やけどのおそれがあります。
- バッテリーは定期的に交換してください。交換時期を過ぎたバッテリーは火災の原因になることがあります。
- バッテリーの清掃には、ガソリン、シンナー、ベンジンなどの有機溶剤や市販の洗剤などを使用しないでください。これらを付着させると電槽にひびや割れを起こし漏液して、漏電や火災の原因になることがあります。
- UPSのバッテリーコネクタおよび増設バッテリーコネクタ部(オプション)、バッテリーパックコネクタに金属棒や指などを差し込まないでください。感電、やけどのおそれがあります。
- 交流入力電源を切断し、バッテリーを取り外しても内部部品には手を触れないでください。高電圧が残留している部品があり、感電のおそれがあります。



6. その他の注意事項



注 意

- 本UPSは輸出貿易管理令別表第一の16の項に掲げる貨物に該当します。これらの該当製品をお客様が輸出する場合、他の貨物に組み込んで輸出する場合、または他の貨物とともに輸出する場合、「インフォーム要件」「客観要件」の検討を含め、監督官庁に対し安全保障貿易に関する手続きを実施いただくことを推奨します。

7. バッテリーに関する注意



注 意

- サービス員以外はバッテリーの保守・点検を行わないでください。専門知識のない方はバッテリーに触れないようにしてください。
- バッテリーを交換する際は、このUPSに使用されているバッテリーと同型のものを使用してください。不適切なタイプのバッテリーに交換すると爆発の危険があります。
- 使用済みのバッテリーは、そのまま廃棄せず、購入先またはサービス会社・営業所にご連絡ください。このUPSのバッテリーは、鉛蓄電池です。鉛蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源ですのでバッテリーの交換およびご使用済みバッテリーの廃棄に際しては、鉛蓄電池のリサイクルへご協力ください。
- 使用期限の過ぎたバッテリーは使用しないでください。発煙、発火の原因になることがあります。また、停電時にバッテリーバックアップができず、負荷機器を停止させる可能性があります。
- バッテリーは感電の危険がある高短絡電流を発生することがあります。バッテリーを保守・点検するときは、つぎの予防をしてください。
 - a. 時計、腕輪などの金属物を外すこと。
 - b. 絶縁された工具を使用すること。
 - c. ゴム製の手袋、および靴を着用すること。
 - d. 工具または金属部品をバッテリーの上に置かないこと。
 - e. バッテリー端子を接続または取り外す前に、充電用電源を切ること。
- バッテリーを開いたり切断したりしないでください。内部には電解液の希硫酸が含まれています。希硫酸は劇毒物で皮膚や目に非常に有害です。バッテリーが漏液した場合は皮膚や衣服に付着させないでください。希硫酸が目に入ると失明、皮膚に付くと火傷のおそれがあります。また、導電性、腐食性があります。つぎの注意事項を守ってください。
 - a. 眼は完全に保護し、保護衣類を着用すること。
 - b. 希硫酸が皮膚に付着した場合は、直ちに水で洗い流すこと。
 - c. 希硫酸が眼に付着した場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
 - d. 漏液した希硫酸は酸中和剤（約500gの重碳酸ソーダを約4リットルの水に溶かした溶液）で洗い流してください。その後、溶液を水で洗い流し乾燥させてください。
- 鉛酸バッテリーは水素ガスを発生するため、火災が発生する危険があります。つぎの注意事項を守ってください。
 - a. バッテリー周辺で喫煙しないこと。
 - b. バッテリー周辺で火またはスパークを発生させないこと。
 - c. 保守・点検の前に静電気を取り除くこと。
- バッテリーの発火時には、消火のために水を使用せず、粉末(ABC)消火器を用いてください。水を使用すると、火災を拡大させる原因になることがあります。
- バッテリーを火の中に捨てないでください。バッテリーが爆発する可能性があります。
- バッテリーを漏液、発熱、爆発させる原因になることがあります。つぎの注意事項を守ってください。
 - a. バッテリーに直接はんだ付けしないこと。
 - b. バッテリーのプラス端子(+)とマイナス端子(-)を逆にして充電しないこと。
 - c. バッテリーの種類・メーカー名・新旧異なるものを混ぜて使用しないこと。
 - d. バッテリーの外装チューブをはがしたり、傷をつけないこと。
 - e. バッテリーに強い衝撃を与えたり、投げつけないこと。
 - f. バッテリーの清掃には、ガソリン、シンナー、ベンジンなどの有機溶剤や洗剤を使用しないこと。
 - g. 使用済みバッテリーでも電気エネルギーが残っているので、スパークやショートをさせないこと。



§ 3. 正しくご使用いただくためのご注意

§ 3.1 UPSの入力電源

(1) 入力電源および電源容量

このUPSの交流入力電源の定格は下表のとおりです。電圧、周波数の変動範囲については「§ 12.4 仕様」をご覧ください。

UPSタイプ	交流入力電圧定格	交流入力周波数定格	入力所要容量	入力分電盤ブレーカ
FU-S5-T	200, 220, 230, 240, 208V ^{*1}	50Hz または 60Hz ^{*2}	5.5 kVA	40A以上
FU-S5-C	(工場出荷時)			30A以上

*1. 工場出荷時は200Vに設定されています。LCDパネルの設定メニューにより、UPSをご使用になる地域の交流電圧に合わせ、設定を変更することができます。設定方法はLCDパネル操作説明書をご覧ください。

*2. 工場出荷時は、UPSが自動的に交流入力周波数（50Hzまたは60Hz）を判別するように設定されています。

(2) コンピュータシステムおよび電源装置の対アース電位を正しく使用していただくために、交流入力電源の種類によりUPSとの接続を下表のとおり施工してください。

① 交流入力電源の調査

使用される交流入力電源が、表のいずれに該当するか事前に調査してください。なお、不明の場合はテストなどで対地電圧を測定し、判定してください。

② 入力配線工事

表の“適合の可否”が、○または△となるようにUPS入力端子RおよびNへの接続線(相)を選択のうえ、配線してください。

a. 適合の可否○印は、非接地電源および一線接地電源の標準的な接続です。

b. △印は、UPS出力端子（2線とも）に対地電圧が生じている（過大でない）ため、これを負荷装置側で一線接地すると、電源短絡となるので注意してください。

c. ×印は、UPS出力端子の対地電圧が過大となり、負荷装置の故障の原因となります。また、負荷装置側での一線接地は、電源短絡となるので○または△に配線変更、もしくは出力側に絶縁トランスを付加してください。

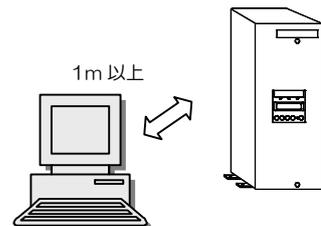
	入力電源の種類	UPSとの接続		適合の可否	UPS出力対地電圧 注2		記 事
		R	N		U-G	V-G	
1 三相非接地電源		A	B	○	記事参照	記事参照	浮いた電圧のため対地電圧の値は不定 対地電圧出力 $V_{U-G} + V_{V-G} = \text{約}200V$
		B	A				
		C	B				
		A	C				
		B	A				
		C	B				
2 単相非接地電源		A	B	○	記事参照	記事参照	
		B	A				
3 三相接地電源		A	B	○	約200V	約 0V	1. 接地相は、UPS入力のN端子側に接続してください。 2. N端子が接地相でない場合は (1)非同期運転時にUPS出力の対地電圧が上昇します。 (2)UPS出力側を一線接地すると電源短絡になります。
		C	B	×	約200V (約400V)	約200V	
		A	C	×	約 0V (約400V)	約200V	
		C	A				
		B	A	△	約120V (約320V)	約120V	
		C	B				
A	C						
4 単相接地電源		A	B	○	約200V	約 0V	
		B	A	×	約 0V (約400V)	約200V	
5 中間接地電源 単相3線		A	B	△	約100V (約300V)	約100V	1.非同期運転時にUPS出力の対地電圧が上昇します。 2.UPS出力側を一線接地すると電源短絡になります。
		B	A				
6 中間接地電源 三相4線		A	B	△	約120V (約320V)	約120V	
		B	A				
		B	C				
		C	B				
		C	A				
		A	C				
7 中間接地電源 三相3線		A	B	×	約100V (約380V)	約180V	1.非同期運転時にUPS出力の対地電圧が上昇します。 2.UPS出力側を一線接地すると電源短絡になります。
		C	B				
		B	A	△	約100V (約300V)	約100V	
		C	C				
		A	C				
		C	A				

注1. 上表の電圧値は、入出力電圧が200Vの場合の値です。

注2. カッコ内は非同期運転時の最大値を示します。

§ 3.2 設置時の注意

- (1) 入力側に漏電ブレーカを設置する場合は、感動電流にご注意ください。
漏れ電流は最大4mAです。
- (2) CRTディスプレイからは1m以上の間隔をあけて設置してください。
わずかですが漏れ磁束がありますので磁束による影響を受けやすいものは、間をあけて使用してください。
- (3) UPSはファンによる強制空冷を行っています。吸排気のため
「§ 6.1.2 設置スペースを確認する」で指定されたスペースをとってUPSを設置してください。
- (4) 交流入力電源が一線接地されている場合は、必ずUPSのN端子を接地相としてください。
詳細は「§ 6.3 UPSの配線」をご覧ください



§ 3.3 取り扱い上の注意

- (1) 出力回路の短絡はしないでください。
UPSの保護機能が動作するか、またはブレーカのトリップなどにより、出力が供給されなくなります。
- (2) 接続禁止負荷機器
レーザープリンタ、普通紙ファックス、コピー機、OHP、掃除機、ヘアドライヤーなどはUPSに接続しないでください。これらの機器は、一時的に過大な電流が流れるため、UPSが過電流を検出し停電時のバックアップができなくなります。また、UPSが故障するおそれがあります。
- (3) 電源環境について
長時間停電が頻繁（週1回以上）に発生する環境で使用すると、バッテリーが十分充電されなかったり、バッテリーの劣化が早まるためバッテリー寿命が著しく短くなることがあります。
- (4) 長期間UPSを使用せず保管する場合は、バッテリーの補充電が必要です。補充電を行わないまま放置するとバッテリーの寿命が著しく短くなる場合があります。UPSの保管環境により下表のように補充電を実施してください。補充電に必要な時間は「§ 7.2 UPSを充電する」をご覧ください。

保管温度環境	補充電
25℃	6か月/1回
30℃	4か月/1回
40℃	2か月/1回

補充電の手順

- ① UPS正面の **MAIN MCCB** を「ON」にします。
- ② **INPUT** が点灯したことを確認します。
↓ 補充電が開始されます。
- ③ 指定時間以上そのまま運転を継続します。
- ④ 指定時間以上経過後、**MAIN MCCB** を「OFF」にします。

- (5) 絶縁試験について
屋内配線の絶縁試験を行う場合は、UPSを停止し入出力配線を外してから行ってください。配線したまま行くと内蔵の避雷器など、電子部品を破損するおそれがあります。
- (6) ラックへ搭載する場合はL型レール（サポートレール）が必要です。
詳細はご使用のラックメーカー、UPSの購入先または当社へお問い合わせください。

§ 4. 包装内容の確認

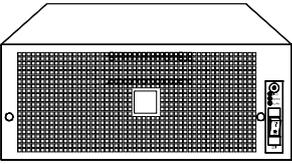
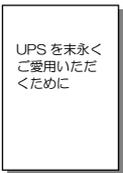
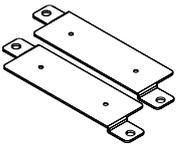
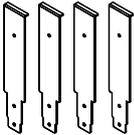
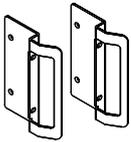
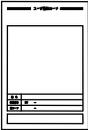
包装を開きましたら、包装内容をご確認ください。

UPS、添付品はすべてそろっていますか？
 外観に損傷、異常はありませんか？

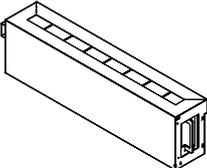
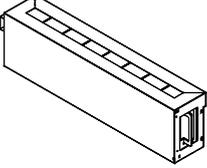
チェック印で確認してください。

万が一異常がありましたら、購入先または当社までご連絡ください。

図はイメージです。実際のものとは形状は異なります。

<input type="checkbox"/> FU-S5 1台 	<input type="checkbox"/> LCDパネル操作説明書 1冊 <input type="checkbox"/> 取扱説明書（本書） 1冊 	<input type="checkbox"/> 保証書 1部 	<input type="checkbox"/> 冊子（UPSを未永くご愛用いただくために） 1部 
<input type="checkbox"/> 転倒防止金具 2個 	<input type="checkbox"/> 補助金具A： 転倒防止金具 取付用 4個 	<input type="checkbox"/> ねじA：金具取付用 M4×6 6個（黒） 	<input type="checkbox"/> ねじB：金具取付用 M4×8 4個 
<input type="checkbox"/> ラックマウント金具 2個 	<input type="checkbox"/> 補助金具B： ラックマウント金具 取付用 2個 	<input type="checkbox"/> LCDパネル 1個 	<input type="checkbox"/> ねじC：LCDパネル固定用 M3×6 2個 
<input type="checkbox"/> ユーザー登録カード 1部 	<input type="checkbox"/> 名刺入れ 1個 	<input type="checkbox"/> LCDパネル接続ケーブル 1本 	

別包装

<input type="checkbox"/> バッテリパックA 1個 	<input type="checkbox"/> バッテリ交換用ラベル 1枚 	<input type="checkbox"/> 銘板使用方法説明書 1部 
<input type="checkbox"/> バッテリパックB 1個 	バッテリパックBには、 バッテリ交換用ラベル、 銘板使用方法説明書は 添付されていません。	

・長時間バックアップ用バッテリー盤と組み合わせて使用する場合、バッテリーパックは添付されません。

UPSの譲渡または売却時のご注意

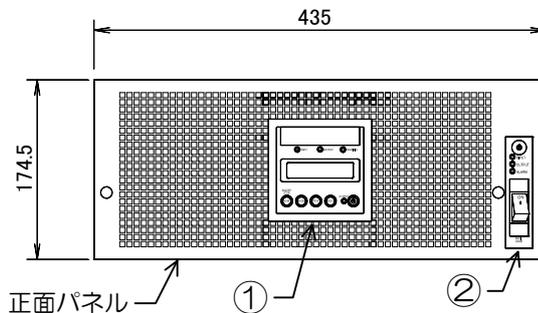
このUPSを第三者に譲渡または売却する場合は、このUPSに添付されているすべてのものを譲渡または売却してください。

§ 5. 外形寸法および各部の名称

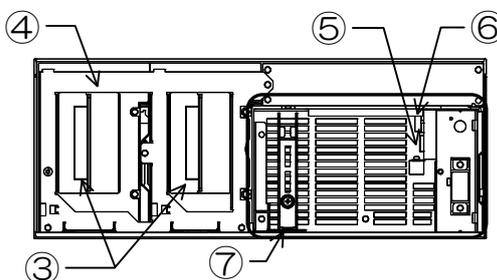
§ 5.1 UPS

単位：mm

正面

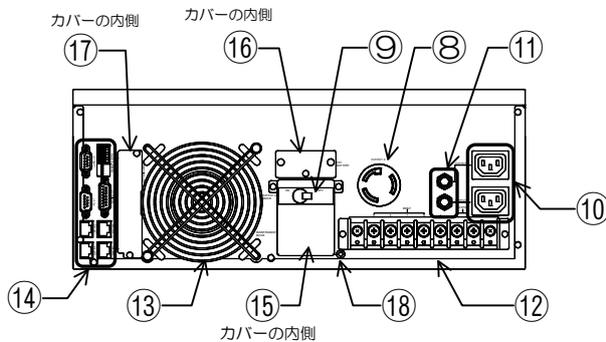


正面パネル内部



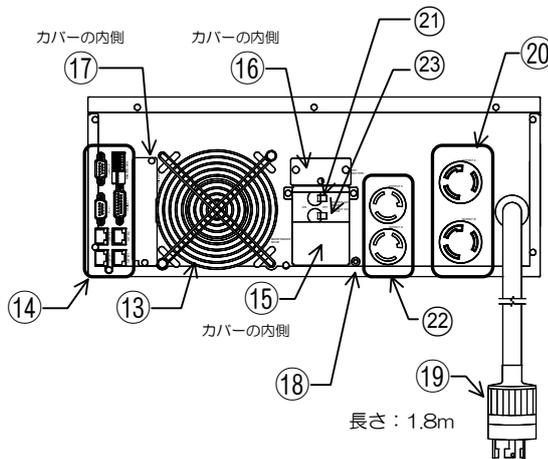
端子台タイプ

背面



プラグタイプ

背面



番号	名称	本体の表示	機能
①	LCDパネル	§5.2 参照	UPS状態表示、計測表示、各種設定、操作
②	本体操作パネル	§5.3 参照	UPS状態表示、操作
③	バッテリーバック※4	—	バックアップ用バッテリー
④	バッテリーバック押え金具	—	バッテリーバックの固定
⑤	LCDパネル接続コネクタ	—	LCDパネルの接続
⑥	強制バイパススイッチ※3	Forced Bypass	保守バイパス回路への切り換え (保守バイパスブレーカと併用)
⑦	インバータモジュール	—	整流器、充電器、インバータ、バイパス回路
⑧	出力コンセント A	OUTPUT A	負荷機器の接続 NEMA L6-30R
⑨	出力コンセント A 用ブレーカ	OUTPUT A MCCB	出力コンセント A の保護
⑩	出力コンセント B,C	OUTPUT B OUTPUT C	負荷機器の接続 IEC-C13 2個
⑪	出力コンセント B,C 用ブレーカ	OUTPUT B OUTPUT C	出力コンセント B, C の保護 各 1 個
⑫	入出力端子台	INPUT E OUTPUT	入力電源、アース、負荷機器の接続
⑬	冷却ファン排気口	—	UPS内部の冷却
⑭	外部インタフェース	§5.4 参照	外部機器接続用インタフェース
⑮	保守バイパスブレーカ	MAINTENANCE MCCB	保守バイパス回路のON/OFFと保護
⑯	増設バッテリーコネクタ	EXT. BATTERY	増設バッテリー※1の接続
⑰	オプションカードスロット	OPTION CARD	オプションカード※1の挿入口
⑱	増設バッテリーアース接続端子	—	増設バッテリー※1のアース接続
⑲	入力プラグ	—	UPSの入力電源の接続 NEMA L6-30P
⑳	出力コンセント A, B	OUTPUT A OUTPUT B	負荷機器の接続 NEMA L6-30R 2個
㉑	出力コンセント A, B 用ブレーカ	OUTPUT A OUTPUT B	出力コンセント A, B の保護 (A, B 共通で 1 個)
㉒	出力コンセント C, D	OUTPUT C OUTPUT D	負荷機器の接続 NEMA L6-20R 2個
㉓	出力コンセント C, D 用ブレーカ	OUTPUT C OUTPUT D	出力コンセント C, D の保護 (C, D 共通で 1 個)

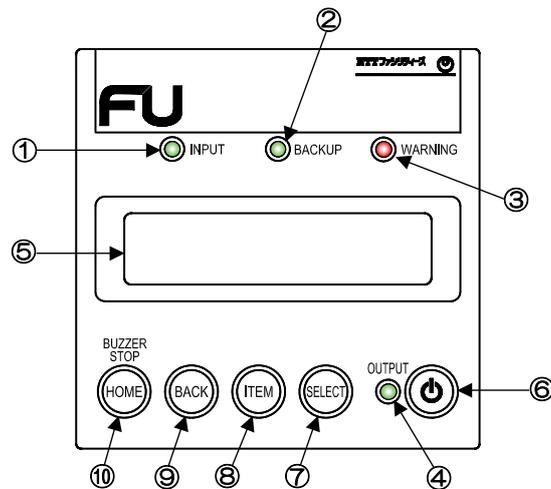
ご注意

- ※1. 各種オプション機器については、購入先または当社までお問い合わせください。
- ※2. この取扱説明書中、ブレーカ、スイッチは **MAIN MCCB** のように で囲み表示されています。
- ※3. 強制バイパススイッチ **Forced Bypass** は、保守バイパスブレーカ **MAINTENANCE MCCB** を使用する場合に操作します。通常は、「Inverter」側にセットしておき、操作しないでください。
- ※4. 長時間バックアップ用のバッテリー盤と組み合わせて使用する場合、バッテリーバックは搭載されません。
- ※5. 本文中の挿入図に指定がない場合は横置きの場合を示します。縦置きの場合も同様に操作してください。

質量、奥行きは下表のとおりです。

タイプ	カナ品名	質量 (kg)	奥行き (mm)
端子台タイプ	FU-S5-LIM-S2S2-005-T-A-SY-UPS	82	700 突起物は含みません
プラグタイプ	FU-S5-LIM-S2S2-005-C-A-SY-UPS	82	

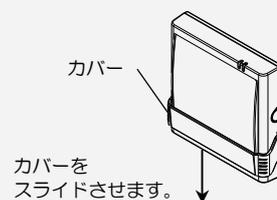
§ 5.2 LCDパネル



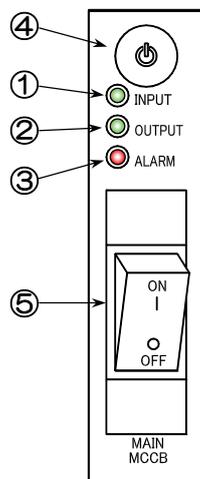
番号	名称	表示	色	機能
①	入力 LED	INPUT	緑	点灯 入力電源が正常な場合
				点滅 入力電源が異常な場合
②	バックアップ LED	BACKUP	緑	点灯 バッテリ運転中
③	警告 LED	WARNING	赤	点灯 注意・警告情報または故障発生時、バッテリー運転放電終止
④	出力 LED	OUTPUT	緑	点灯 インバータ運転による給電中
				点滅 バイパス運転による給電中
⑤	LCD 画面	—	—	UPS の状態情報、計測値、保守支援情報、各種設定値、操作などを表示
⑥	ON/OFF ボタン	—	—	インバータ運転の起動・停止操作
⑦	SELECT キー	SELECT	—	LCD 表示項目・内容の選択・決定
⑧	ITEM キー	ITEM	—	LCD 表示項目・内容の切り換え
⑨	BACK キー	BACK	—	選択の取り消し、LCD 表示（メニュー）階層を戻す
⑩	HOME キー	BUZZER STOP HOME	—	LCD 表示（メニュー）階層をホームメニューに戻す ブザー鳴動中、ブザー音の停止

LCDパネルについて

- LCDパネルの操作方法、機能の詳細はLCDパネル操作説明書をご覧ください。
- LEDの図表示について
LEDは、本文中【INPUT^①】、【WARNING^③】、点灯状態 点灯：、点滅：
のように表示されています。
- LCDパネル操作部のカバーについて
ON/OFF ボタン、キーを操作するときは、
カバーを下にスライドさせます。
操作後は、誤操作防止のため、もとに戻してください。



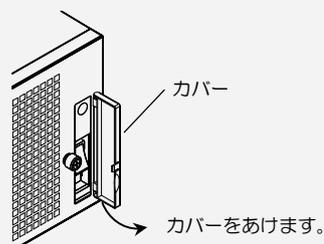
§ 5.3 本体操作パネル



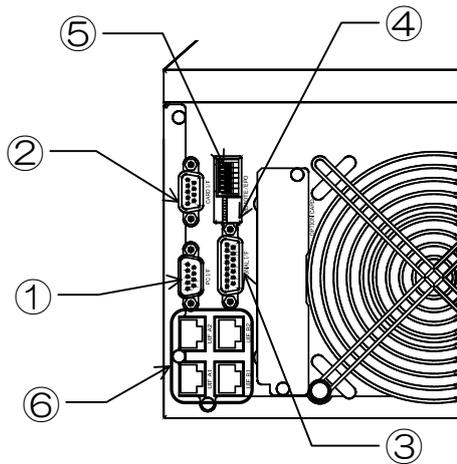
番号	名称	表示	色	機能	
①	入力 LED	INPUT	緑	点灯	入力電源が正常な場合
				点滅	入力電源が異常な場合
②	出力 LED	OUTPUT	緑	点灯	インバータ運転による給電中
				点滅	バイパス運転による給電中
③	アラーム LED	ALARM	赤	点灯	故障発生時、バッテリー運転放電終止
④	ON/OFF ボタン	—	—	インバータ運転の起動・停止操作	
⑤	メインブレーカ	MAIN MCCB	—	UPSの入力電源 ON/OFFと保護 内蔵バイパス回路の保護	

本体操作パネルについて

- この取扱説明書中、ブレーカは **MAIN MCCB** のように  で囲み表示されています。
- LEDの図表示について
LEDは、本文中【INPUT^①】、【WARNING^③】、点灯状態 点灯： 、点滅：  のように表示されています。
- 操作部のカバーについて
MAIN MCCB、ON/OFF ボタンを操作するときは、カバーをあけます。
操作後は、誤操作防止のため、もとに戻してください。

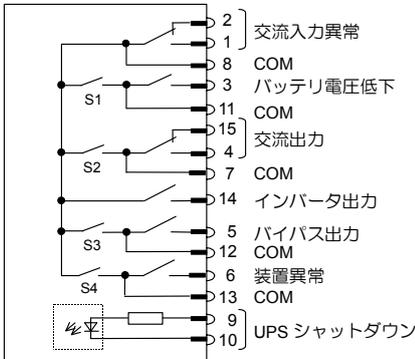
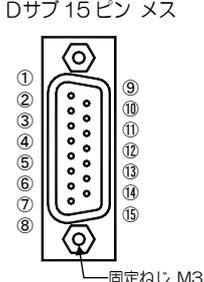


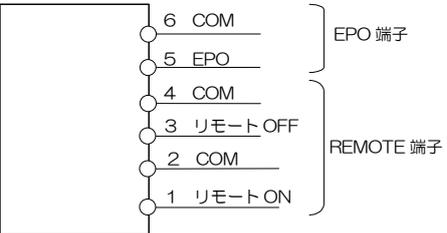
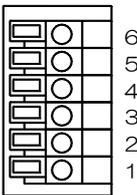
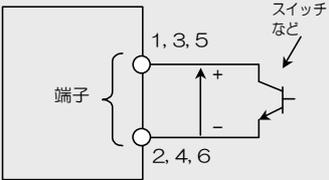
§5.4 外部インターフェース



ご注意
PC インターフェースコネクタと
カードインターフェースコネクタは
同時に使用することはできません。

番号	名称	機能
①	PC I/F PCインターフェース コネクタ (RS-232C)	<p>当社の電源管理ソフトウェア（オプション）を使用する場合に、専用の通信ケーブルを接続します。LCDパネル設定メニュー「インターフェース」の設定値により、下記のように機能します。ご使用になる機能に合わせて、インターフェースを選択してください。設定方法はLCDパネル操作説明書「§3.5 インターフェースを設定する」をご覧ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> インターフェース設定： WS（ワークステーション）（工場出荷時） <ul style="list-style-type: none"> オプションの電源管理ソフトウェアを使用して、UPSとコンピュータ（パーソナルコンピュータ、ワークステーションなど）の通信による電源管理、コンピュータをシャットダウンします。電源管理ソフトウェアについては購入先、または当社までお問い合わせください。 インターフェース設定： Standalone（スタンドアロン） <ul style="list-style-type: none"> OS（NetWare, Windows NTなど）の標準UPSサービス機能を使用して、UPSを自動シャットダウンします。 <p>ご注意 電源管理ソフトウェア（オプション）との組み合わせでシリアル接続する場合は、インターフェースを WS（ワークステーション）に設定してください。スタンドアロンに設定して使用すると、停電時、UPSが直ちに停止することがあります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>信号名称</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>外観</p> <p>Dサブ9ピン オス</p> </div> </div>
②	CARD I/F カードインターフェース コネクタ	<p>当社のLANインターフェースカード（オプション）の接続ケーブルを接続します LANインターフェースカードを接続するときは、インターフェースを WS（ワークステーション）に設定してください。インターフェースの設定方法は、LCDパネル操作説明書「§3.5 インターフェースを設定する」をご覧ください。</p>

番号	名称	機能																								
③	SIGNAL I/F 接点信号インタフェースコネクタ	<p>停電やバッテリー電圧低下などのUPSの状態情報を出力します。</p> <p>外部転送信号、シャットダウン入力信号</p> <table border="1" data-bbox="523 286 1388 837"> <thead> <tr> <th>信号名</th> <th>内容</th> <th>ピン番号 および 作動時の状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交流入力異常</td> <td>商用電源が停電または電圧異常になった場合に信号が出力されます。</td> <td>1-8 : ON 2-8 : OFF</td> </tr> <tr> <td>バッテリー電圧低下</td> <td>バッテリー電圧が所定値(約178V)以下に低下した場合に信号が出力されます。</td> <td>3-11 : ON</td> </tr> <tr> <td>交流出力</td> <td>負荷装置へ交流出力を供給している場合に信号が出力されます。</td> <td>4-7 : ON 15-7 : OFF</td> </tr> <tr> <td>インバータ出力</td> <td>負荷装置へインバータ出力が供給されている場合に信号が出力されます。</td> <td>14-8 : ON</td> </tr> <tr> <td>バイパス出力</td> <td>バイパス回路から商用電源が供給されている場合に信号が出力されます。</td> <td>5-12 : ON</td> </tr> <tr> <td>装置異常</td> <td>装置異常が発生した場合に信号が出力されます。</td> <td>6-13 : ON</td> </tr> <tr> <td>UPS シャットダウン</td> <td>停電時バッテリー運転中にDC5Vを受信(4s以上のパルス信号)することにより、UPSを停止します。通電時に流れる電流は約5mAです。 インタフェースが Standalone (スタンドアロン) に設定されている場合に有効です。設定方法はLCDパネル操作説明書「§3.5 インタフェースを設定する」をご覧ください。</td> <td>9-10</td> </tr> </tbody> </table> <p>外部転送信号 電気的特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタフェース：リレー無電圧接点信号 ・接点定格：AC100V/DC50V, 0.1A <p>ご注意</p> <p>誘導性・容量性負荷を接続する場合は、接点定格を超えないようにしてください。</p> <p>端子名称</p>  <p>S1~S4 ー：接点信号独立用スイッチ (④ 参照)</p> <p>外観</p>  <p>Dサブ 15ピン メス 固定ねじ M3</p>	信号名	内容	ピン番号 および 作動時の状態	交流入力異常	商用電源が停電または電圧異常になった場合に信号が出力されます。	1-8 : ON 2-8 : OFF	バッテリー電圧低下	バッテリー電圧が所定値(約178V)以下に低下した場合に信号が出力されます。	3-11 : ON	交流出力	負荷装置へ交流出力を供給している場合に信号が出力されます。	4-7 : ON 15-7 : OFF	インバータ出力	負荷装置へインバータ出力が供給されている場合に信号が出力されます。	14-8 : ON	バイパス出力	バイパス回路から商用電源が供給されている場合に信号が出力されます。	5-12 : ON	装置異常	装置異常が発生した場合に信号が出力されます。	6-13 : ON	UPS シャットダウン	停電時バッテリー運転中にDC5Vを受信(4s以上のパルス信号)することにより、UPSを停止します。通電時に流れる電流は約5mAです。 インタフェースが Standalone (スタンドアロン) に設定されている場合に有効です。設定方法はLCDパネル操作説明書「§3.5 インタフェースを設定する」をご覧ください。	9-10
信号名	内容	ピン番号 および 作動時の状態																								
交流入力異常	商用電源が停電または電圧異常になった場合に信号が出力されます。	1-8 : ON 2-8 : OFF																								
バッテリー電圧低下	バッテリー電圧が所定値(約178V)以下に低下した場合に信号が出力されます。	3-11 : ON																								
交流出力	負荷装置へ交流出力を供給している場合に信号が出力されます。	4-7 : ON 15-7 : OFF																								
インバータ出力	負荷装置へインバータ出力が供給されている場合に信号が出力されます。	14-8 : ON																								
バイパス出力	バイパス回路から商用電源が供給されている場合に信号が出力されます。	5-12 : ON																								
装置異常	装置異常が発生した場合に信号が出力されます。	6-13 : ON																								
UPS シャットダウン	停電時バッテリー運転中にDC5Vを受信(4s以上のパルス信号)することにより、UPSを停止します。通電時に流れる電流は約5mAです。 インタフェースが Standalone (スタンドアロン) に設定されている場合に有効です。設定方法はLCDパネル操作説明書「§3.5 インタフェースを設定する」をご覧ください。	9-10																								
④	接点信号独立用スイッチ	<p>OFF設定により外部転送信号の各接点を独立させます。 ③接点インタフェースコネクタを参照し、お客様の使用方法に合わせてON/OFFを設定してください。出荷時はすべて「ON」に設定されています。</p> <p>外観</p>  <p>1~4がすべてONの状態</p> <p>各接点信号を独立した回路として使用する場合「OFF」にします。 各接点信号を共通のCOM回路で使用する場合「ON」にします。</p>																								

番号	名称	機能
⑤	<p>REMOTE/EPO</p> <p>外部コントロール端子</p>	<p>UPSを外部から無電圧接点で制御する場合に使用する端子です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="582 293 858 322"> <p>REMOTE/EPO 端子名称</p>  </div> <div data-bbox="1125 293 1193 322"> <p>外観</p>  </div> </div> <p>REMOTE端子 (1~4番端子)</p> <p>離れた場所からUPSのON/OFF操作、コンピュータのシャットダウンを実行するリモートスイッチを接続します。インターフェースの設定値により、つぎのように動作します。</p> <ol style="list-style-type: none"> インターフェース設定：WS (ワークステーション) (工場出荷時) <ul style="list-style-type: none"> UPSのリモートON/システムのワンタッチシャットダウン リモートスイッチのOFF操作で、UPSに接続しているコンピュータを遠隔からワンタッチでシャットダウンし、その後UPSを停止します。 インターフェース設定：Standalone (スタンドアロン) <ul style="list-style-type: none"> UPSのリモートON/UPSのリモートOFF <p>ご使用になる機能に合わせて、インターフェースを選択してください。設定方法はLCDパネル操作説明書「§3.5 インターフェースを設定する」をご覧ください。</p> <p>EPO端子 (5,6番端子)</p> <p>EPOとは、「Emergency Power Off (緊急出力停止)」の略称です。UPS出力を緊急停止するためのスイッチなどの接点を接続します。緊急時にこのスイッチを押すと、EPO端子が短絡状態になり、UPS出力が停止します。UPSが緊急停止した後は、緊急出力停止スイッチを解除しても、UPSは緊急停止状態のままです。また、緊急停止中 (EPO端子が短絡状態の場合)、リモートON機能は有効になりません。UPSの運転を再開する場合は、緊急出力停止スイッチ (短絡状態) を解除し、本体操作パネルの (●) を1秒以上押します。</p> <p>端子への接続方法は、「§6.4 オプション機器の接続」をご覧ください。インターフェース設定は、「Standalone」(スタンドアロン)、「WS」(ワークステーション)のどちらに設定されていても機能します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">端子に接続するスイッチなどの接点について</p> <p>端子に接続するスイッチは、UPSのオプション品としては用意されていません。下記の仕様をご確認のうえ、端子の仕様に合ったスイッチ、またはお客様のシステムの接点などを接続してご利用ください。</p> <p>端子仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> 回路電圧：DC+5V 短絡時通電電流：約10mA 作動条件 <ul style="list-style-type: none"> REMOTE：端子間を1秒以上 短絡 EPO：端子間を0.2秒以上 短絡 端子：ワンタッチ端子台 適合電線：AWG26~20 <p>トランジスタなどの半導体スイッチを使用する場合は右図のように2, 4, 6番端子を-(マイナス)極側にして接続してください。 (無極性のスイッチの場合、接続方向の指定はありません。)</p>  </div>
⑥	<p>UIF A1,A2,B1,B1</p> <p>ユニット間</p> <p>インターフェース</p> <p>コネクタ</p>	<p>ユニットを複数台接続する場合に、専用のケーブルでユニット間を接続します。この装置では使用しません。</p>

§ 6. UPSの設置・配線

UPSを設置場所に据え付けた後、バッテリーを搭載し、LCDパネル取り付け、配線をします。取扱説明書の指示どおりに実施してください。

§ 6.1 UPSの設置



注意

- サービス員以外は設置作業をしないでください。取扱説明書の指示どおりにUPSの設置作業をしてください。設置工事に不備があると、感電、けが、火災のおそれがあります。
- UPSの質量（右表）に耐える場所、転倒、落下のおそれのない平らな場所、また振動、衝撃の少ない場所に、取扱説明書のとおり設置してください。地震などの衝撃、振動により、UPSの移動、転倒などで、けがのおそれがあります。
- 安全靴を着用して設置作業をしてください。ラックへの搭載、金具取り付けなど、UPSを持ち上げる際には、必ず二人以上で作業してください。UPSの落下によりけがのおそれがあります。また、腰痛予防に心がけてください。
- 金具の取り付け、UPS設置の際に、手などをはさまないようにご注意ください。
- 移動、据え付け時にUPSを転倒させるおそれがあります。UPSの底部を両手でささえ据え付けてください。故障、けがのおそれがあります。

UPSタイプ	質量(kg)
FU-S5-T	82
FU-S5-C	82

§ 6.1.1 設置環境を確認する

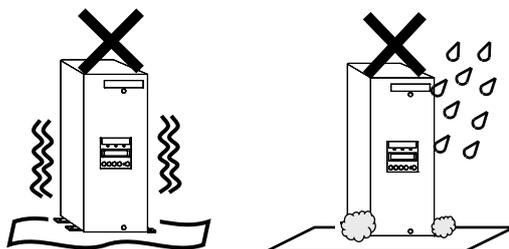
適切な設置環境：温度 0～40度、相対湿度20～90%

つぎのような場所には設置しないでください。

- 接地できない場所
- 周囲温度が40℃以上になる場所
- 高湿度の場所
- 塩分や腐食性ガスのある場所
- 振動、衝撃のある場所
- ホコリの多い場所
- ラック搭載の場合、換気機能のないラック

ご注意

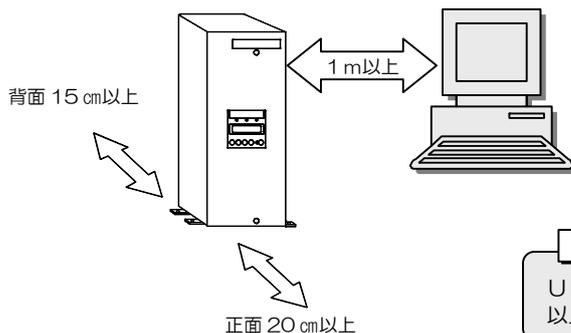
30℃以上の環境で使用するとバッテリーの寿命が著しく短くなります。通常は20～25℃で使用、管理することをおすすめします。



§ 6.1.2 設置スペースを確認する

UPSは、つぎのスペースをとって設置してください。

- 正面約20cm、背面約15cm以上 : 冷却用ファンの排気スペース
- CRTディスプレイから1m以上 : わずかですが漏れ磁束があります。磁束による影響を受けやすいものは、間をあけてください。

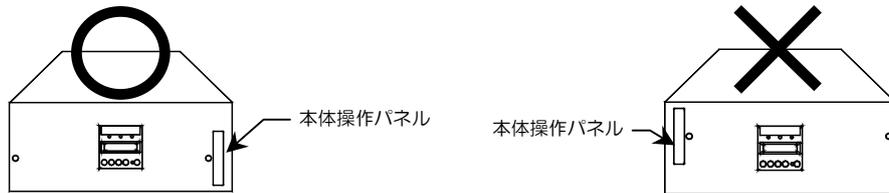


UPSの設置時のご注意

UPSを保守する際に、正面約1m以上、背面約50cm以上の作業スペースがとれるように考慮してください。

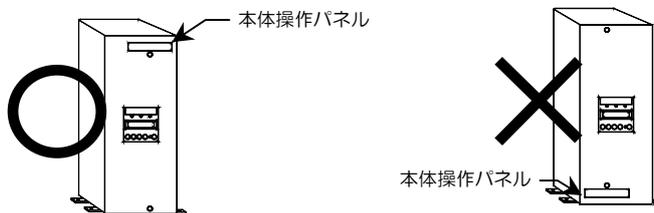
§ 6.1.3 UPSを横に設置する

UPS正面の本体操作パネルが右側になるように、設置場所に水平に置きます。
UPSが故障するおそれがありますのでUPSの上に物を置かないでください。

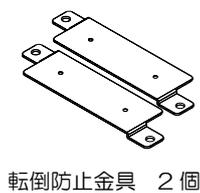


§ 6.1.4 UPSを縦に設置する

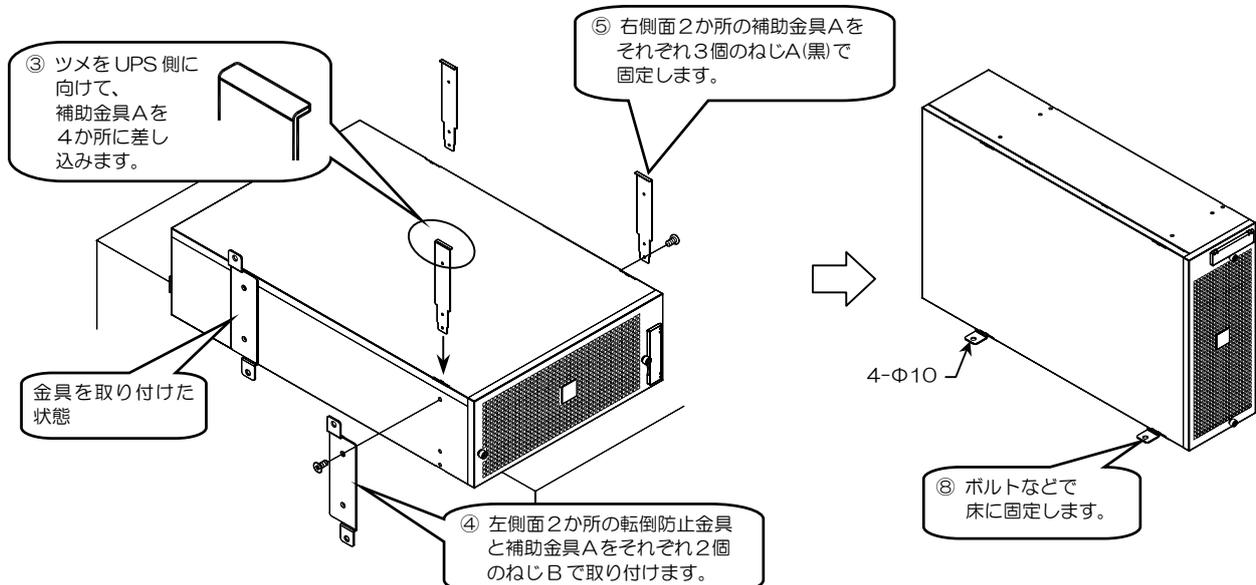
UPSを縦置きにするときは、添付品の転倒防止金具2個を取り付けます。
必ずUPS正面の本体操作パネルが上側になるように設置してください。



- ① 添付品の転倒防止金具2個、転倒防止金具取付用の補助金具A 4個、金具取付用のねじA（黒）6個、ねじB 4個を取り出します。



- ② UPSを机などの台の上に横に置きます。
- ③ 補助金具AをUPS側面の左右4か所に、上部のツメがUPS側を向くように差し込みます。
- ④ 左側面の取付穴の位置に転倒防止金具を合わせ、ねじB（2個）で固定します。
- ⑤ 右側面の補助金具AをねじA（3個）で固定します。
- ⑥ 金具が確実に固定されているか確認します。
- ⑦ 設置場所に、転倒防止金具側を下にしてUPSをたてます。
- ⑧ 安全のため、UPSをボルトなどで床に固定することをおすすめします。



§6.1.5 UPSをラックに搭載する



- 安全のため、ラック搭載時はL型レール（サポートレール）を使用してください。L型レールについては、ご使用のラックメーカーまたは購入先へお問い合わせください。

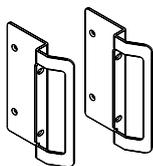
19 インチラックに搭載することができます。

「§6.1.2 設置スペースを確認する」をご覧になり、UPS正面、背面に吸排気スペースを確保してください。また、UPSが破損するおそれがありますのでUPSの上に物を置かないでください。

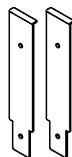
UPSは重量物ですのでラックの最下部へ収納することをおすすめします。

ラック搭載にはL型レール（サポートレール）を使用してください。L型レールについては、ご使用のラックメーカーまたは購入先へお問い合わせください。

- ① 添付品のラックマウント金具2個、ラックマウント金具取付用の補助金具B 2個、金具取付用のねじB 4個を取り出します。



ラックマウント金具 2個

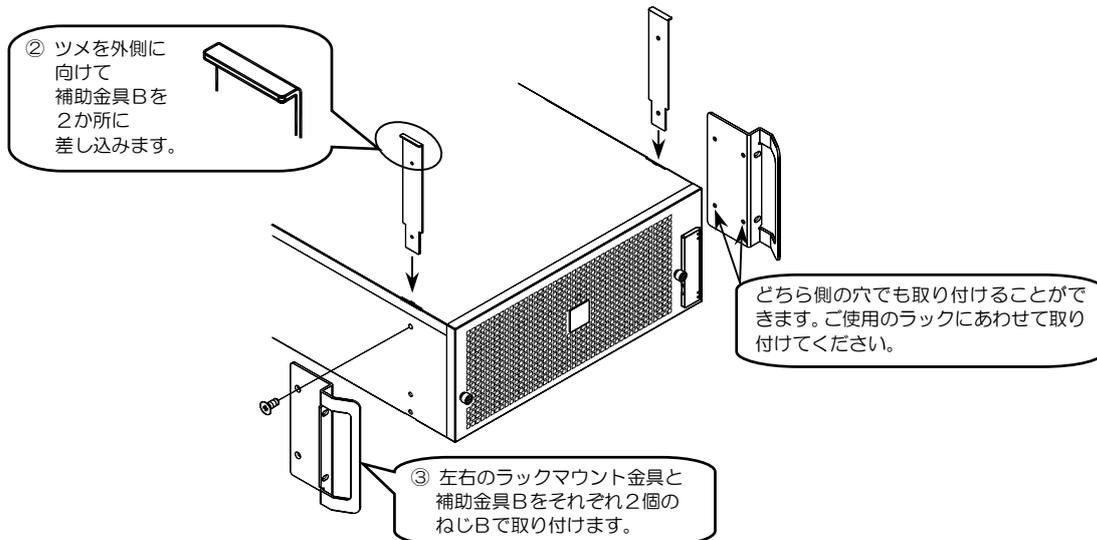


補助金具B 2個
(取付穴が2個の金具)

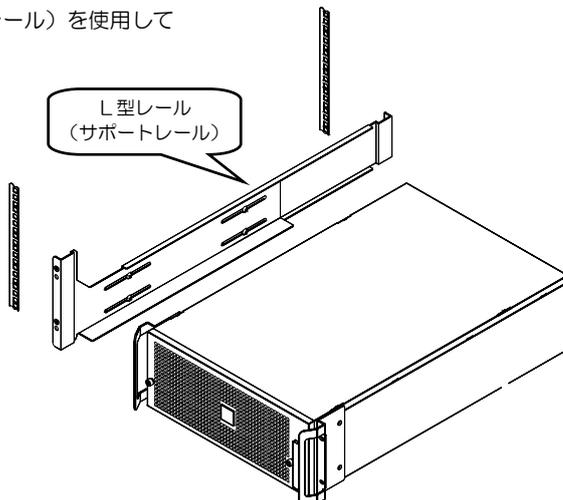


ねじB：金具取付用
M4×8 4個

- ② 補助金具BをUPS正面側の左右2か所に、上部のツメが外側を向くように差し込みます。
- ③ 側面の取付穴の位置にラックマウント金具を合わせ、ねじB（2個）で固定します。



- ④ L型レール（サポートレール）を使用してラックへ搭載します。



ご注意

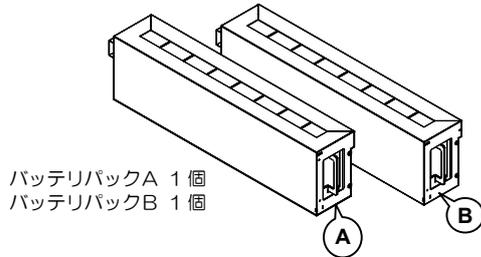
L型レール（サポートレール）は添付されていません。

§6.2 バッテリーパックの搭載、正面パネルの取り付け

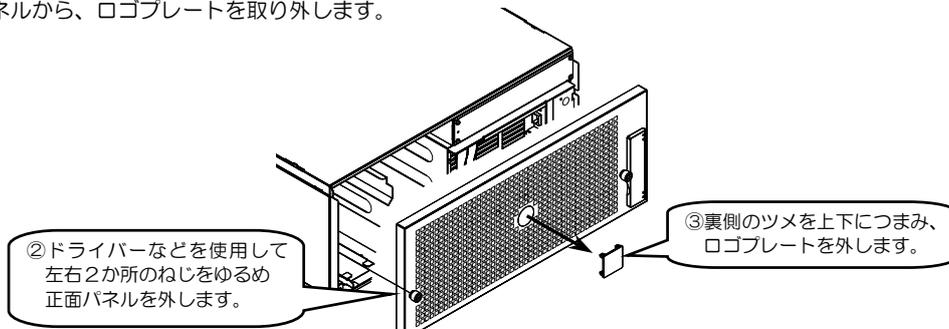
- ① 添付品のLCDパネル、LCDパネル接続ケーブル、LCDパネル固定用ねじC 2個(LCDパネルを固定する場合のみ)、バッテリーパック2つを用意します。



ねじC：LCDパネル固定用
M3×6 2個

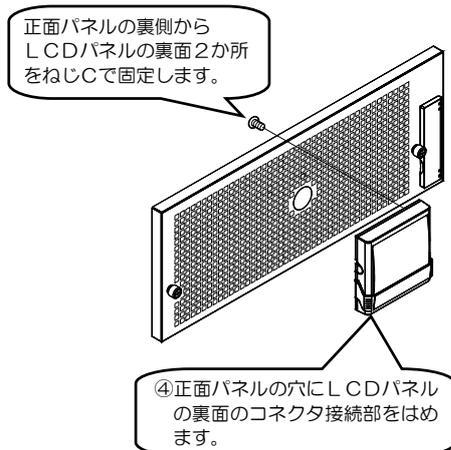


- ② 正面パネルの左右2か所のねじをゆるめ、正面パネルをUPSから取り外します。
③ 正面パネルから、ロゴプレートを取り外します。

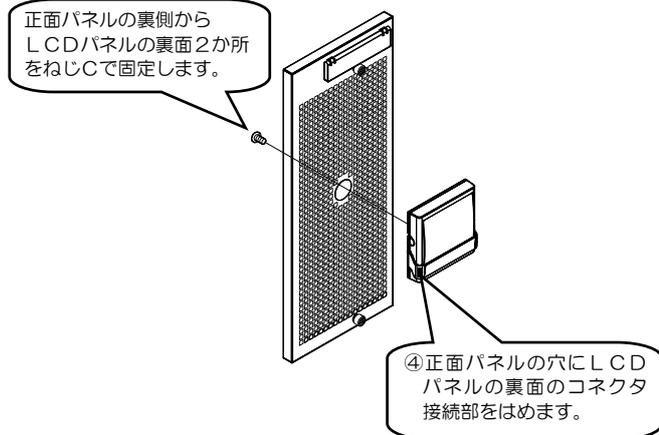


- ④ 正面パネルに、LCDパネルを取り付けます。
磁石により固定されますが、LCDパネルが外れるおそれがある場合は、ねじCで2か所固定します。

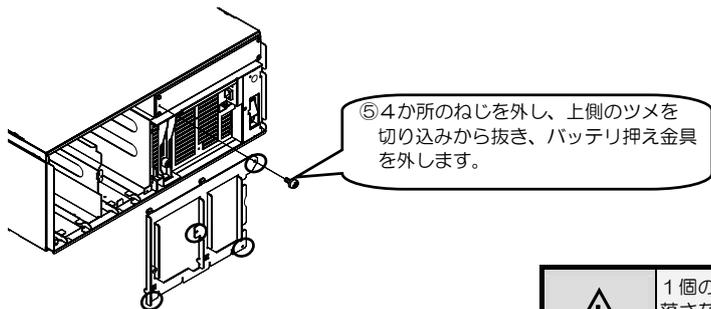
横置き、ラック搭載の場合



縦置きの場合

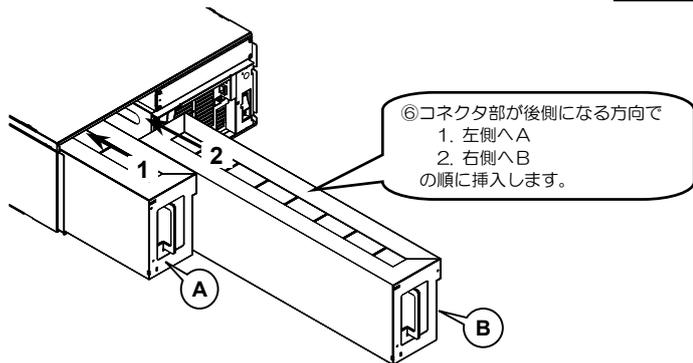


⑤ バッテリ押え金具を取り外します。



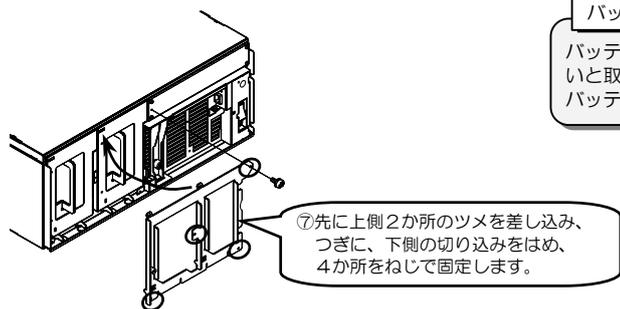
⑥ バッテリパック 2 個をUPSに挿入します。

注意 1個のバッテリーパックの質量は26kgです。落さないように注意してください。バッテリーパックは、横置きの場合は左側、縦置きの場合は下側から挿入してください。



バッテリーパックAを左側へ
バッテリーパックBを右側へ挿入します。
異なる位置には挿入できません。

⑦ 手順⑤で外したバッテリー押え金具を取り付けます。



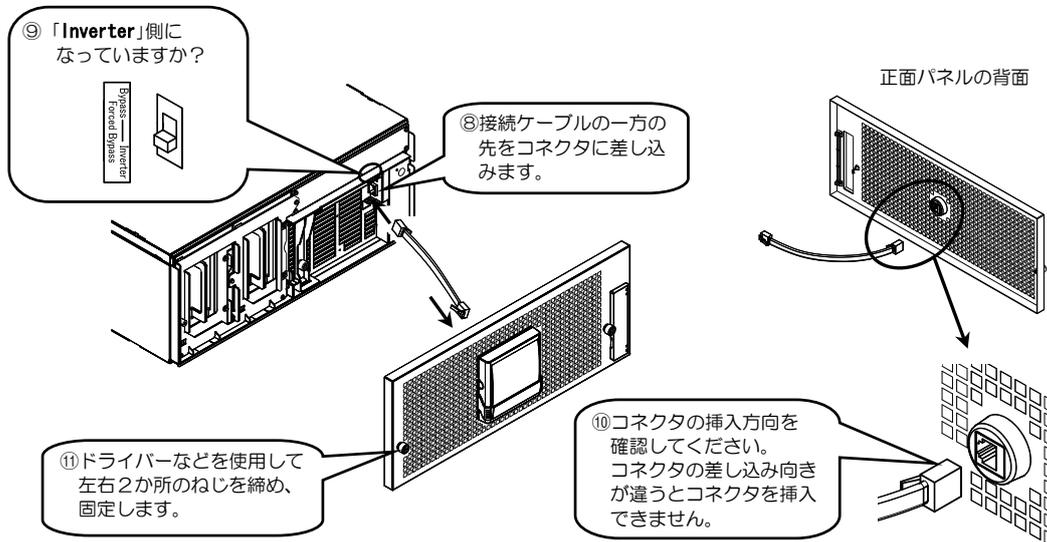
バッテリー押え金具取り付け時のご注意
バッテリー押え金具は、バッテリーパックが正しく挿入されていないと取り付けられません。
バッテリーパックを確実に奥まで押し込んでください。

⑧ LCDパネル接続ケーブルの一方を図の位置のコネクタに差し込みます。

⑨ コネクタ上部にある強制バイパススイッチ **Forced Bypass** が「Inverter」側になっていることを確認します。

⑩ 正面パネル背面のコネクタに、手順⑧で接続したケーブルのもう一方を差し込みます。

⑪ 左右2か所のねじで正面パネルを固定します。



§ 6.3 UPSの配線

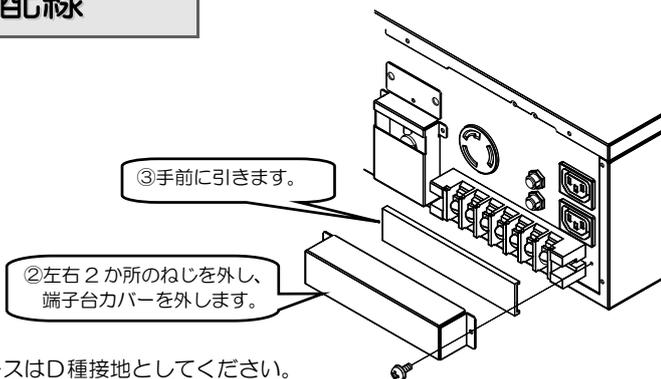


- サービス員以外は配線作業をしないでください。取扱説明書の指示どおりにUPSの配線作業をしてください。配線に不備があると、感電、火災の原因になることがあります。
- 配線作業は、絶縁された手袋をするなどの対処をして行ってください。感電のおそれがあります。
- UPSのプラグの差し込み、端子台の接続にゆるみがないようにしてください。感電、けが、火災のおそれがあります。
- UPSは必ず接地してください。感電のおそれがあります。UPSの接地ができない場所では使用しないでください。

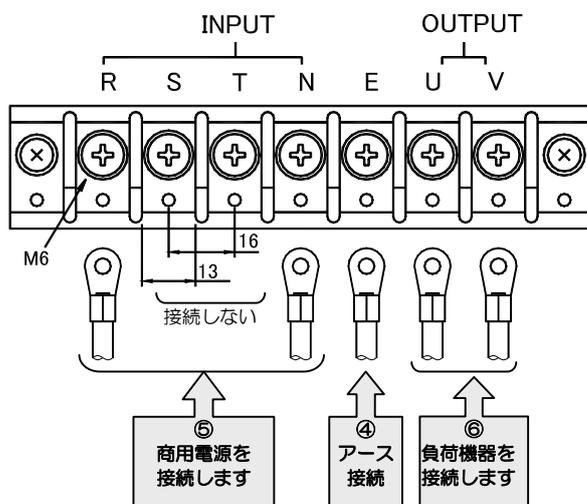


§ 6.3.1 端子台タイプの配線

- ① UPS正面の **MAIN MCCB** が「OFF」になっていることを確認します。
- ② UPS背面の端子台カバーを外します。
- ③ 端子台についている端子台カバーを外します。



- ④ 端子台「E」端子にアースを接続します。アースはD種接地としてください。
- ⑤ 入力端子「INPUT R, N」に商用電源を接続します。
- ⑥ 出力端子「OUTPUT U, V」にお客様の負荷を接続します。



下表をご覧になり、指定されたサイズの電線で配線してください。

端子種別	表示	電線サイズ
入力端子	INPUT R,N	8mm ²
アース端子	E	5.5mm ²
出力端子	OUTPUT U,V	8mm ²

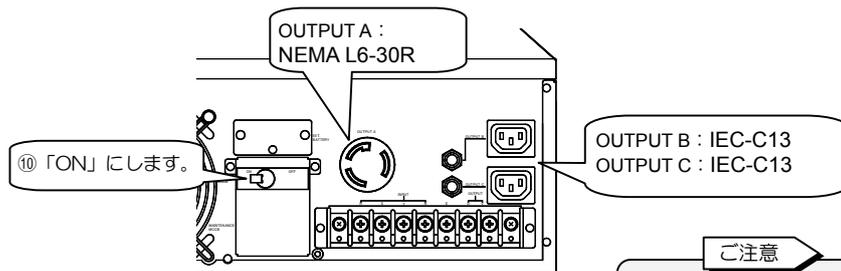
電線径は、600V架橋ポリエチレン(CV)ケーブルを使用した場合を示します。

端子台配線時のご注意

- 入力端子「S、T」には接続しないでください。
- 配線を取り外すときは、アースを最後に外してください。
- 入力電源の極性に注意して配線してください。入力が一線接地されている場合は、接地相を必ずN端子に接続してください。
- 接続する負荷機器が一線接地されている場合は必ずV相側を接地相としてください。

- ⑦ 配線が終わりましたら、ゆるみがないか確認します。
- ⑧ 端子台カバーをもとどおりに取り付けます。

⑨ 出力コンセントに負荷機器を接続します。



⑩ **OUTPUT A MCCB** を「ON」にします。

ご注意
OUTPUT A MCCB を「ON」にしないと、
 OUTPUT Aコンセントから出力が供給されません。
 OUTPUT Aコンセントに負荷機器を接続した場合は、
 必ず「ON」にしてください。

端子台、コンセントに接続する負荷機器の容量の合計が **5 kVA (4.5 kW)** を超えないようにしてください。

コンセント	コンセント容量	注意
OUTPUT A	接続する負荷機器の 電流が 30A を超えない ようにしてください。 コンセント定格 250V 30A NEMA L6-30R	接続する負荷機器が一線接地されてい る場合は必ずX端子(V相)側を接地相 としてください。
OUTPUT B OUTPUT C	ひとつのコンセントに接続する 負荷機器の電流が 10A を超え ないようにしてください。 コンセント定格 250V 10A IEC-C13×2個	接続する負荷機器が一線接地されてい る場合は必ずN端子(V相)側を接地相 としてください。

接続禁止の負荷機器

次のような負荷機器はUPSに接続しないでください。

負荷機器	理由
レーザープリンタ、普通紙ファックス、 コピー機、OHP、掃除機、ドライヤーなど	一時的に過大な電流が流れる機器のため、UPSが過電流を検出し、 停電時にバックアップができなくなります。また、UPSが故障する おそれがあります。
医療用機器、エレベータなどの制御機器、 公共的に重要なコンピュータシステム	システムの多重化、非常用発電設備の設置など、 運用、維持、管理に特別な配慮が必要になります。

§ 6.3.2 プラグタイプの配線

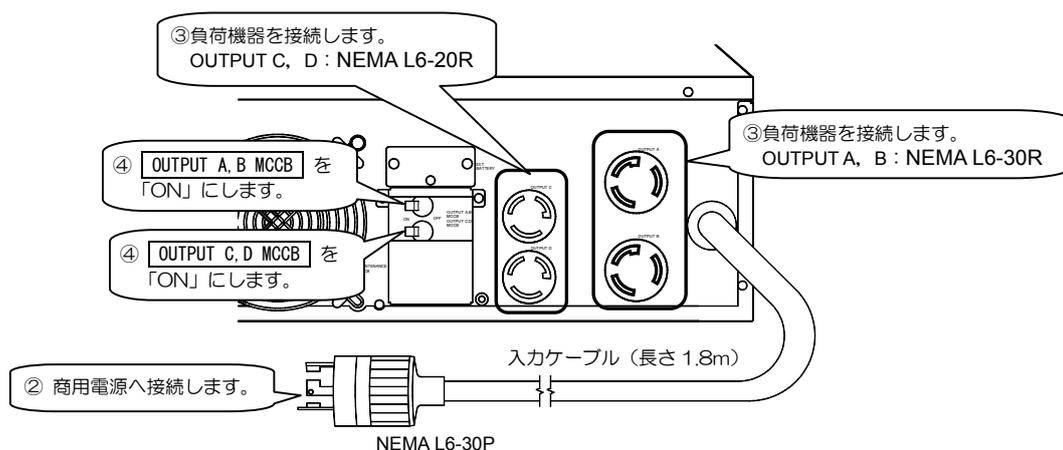
- ① UPS正面の **MAIN MCCB** が「OFF」になっていることを確認します。
- ② 入力プラグを商用電源コンセントへ差し込みます。
- ③ 接続する負荷機器の入力プラグをUPSのコンセントに接続します。
- ④ **OUTPUT A, B MCCB**、**OUTPUT C, D MCCB** をそれぞれ「ON」にします。

ご注意

OUTPUT A, B MCCB、**OUTPUT C, D MCCB** を「ON」にしないと、コンセントから出力が供給されません。負荷機器を接続したコンセントに対応するブレーカを、必ず「ON」にしてください。

すべてのコンセントに接続する負荷機器の容量の合計が **5 kVA (4.5 kW)** を超えないようにしてください。

コンセント	コンセント容量		注意
OUTPUT A OUTPUT B	二つのコンセントに接続する負荷機器の電流の合計が 30A を超えないようにしてください。 コンセント定格 250V 30A NEMA L6-30R × 2個		接続する負荷機器が一線接地されている場合は必ず X端子(V相側を接地相として ください。
OUTPUT C OUTPUT D	二つのコンセントに接続する負荷機器の電流の合計が 20A を超えないようにしてください。 コンセント定格 250V 20A NEMA L6-20R × 2個		



UPSの入力ケーブルの接続について

UPSを使用する電源環境によりつぎのように接続してください。

入力プラグの形状	電源環境	備考
NEMA TYPE L6-30P (刃の方向より見て) 	一線接地されていない 電源環境でご使用になる場合	—
	一線接地されている 電源環境でご使用になる場合	交流入力電源が、一線接地されている場合は、必ず、 X端子(N相)を接地相として ください。

接続禁止の負荷機器

次のような負荷機器はUPSに接続しないでください。

負荷機器	理由
レーザープリンタ、普通紙ファックス、コピー機、OHP、掃除機、ドライヤーなど	一時的に過大な電流が流れる機器のため、UPSが過電流を検出し、停電時にバックアップができなくなります。また、UPSが故障するおそれがあります。
医療用機器、エレベータなどの制御機器、公共的に重要なコンピュータシステム	システムの多重化、非常用発電設備の設置など、運用、維持、管理に特別な配慮が必要になります。

§ 6.4 オプション機器の接続

通信ケーブル、オプション機器などを使用する場合、外部インタフェース部に接続します。外部インタフェース部の機能の詳細は「§ 5.4 外部インタフェース」をご覧ください。

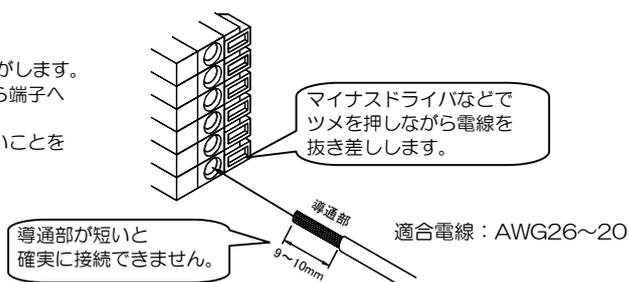
オプション機器は、UPSを運転する前に接続してください。UPSを運転した後にオプション機器を接続する場合は、UPSを完全に停止し、入力電源を遮断した状態で実施してください。
配線、設定などの詳細はオプション機器の取扱説明書をご覧ください。
オプション機器につきましては、購入先または当社にお問い合わせください。

REMOTE/EPO 端子の接続方法

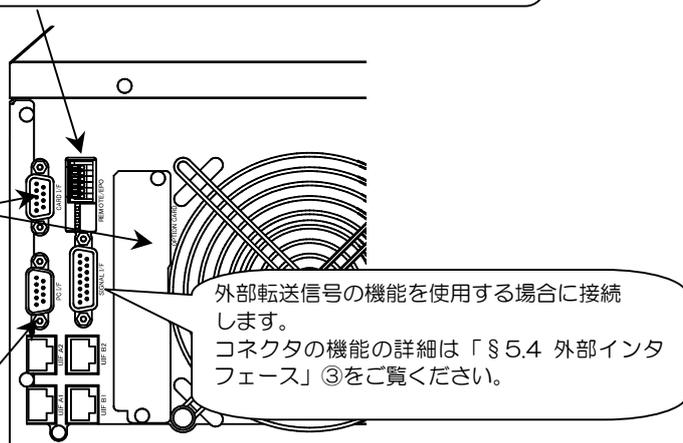
端子の仕様に合ったスイッチ、またはお客様のシステムの接点などを接続してご利用ください。
端子の機能の詳細は、「§ 5.4 外部インタフェース」⑤をご覧ください。

端子の接続手順

- ① 電線の先端の被覆を9～10mm程度はがします。
- ② マイナドライバでツメを押しながら端子へ電線を差し込みます。
- ③ 差し込んだ電線を引っ張り、抜けないことを確認します。

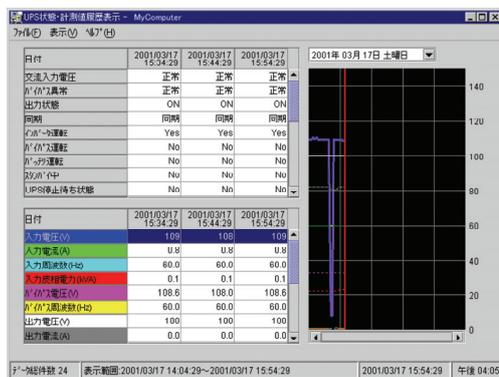


当社のLANインタフェースカード（オプション）を接続します。詳細は、LANインタフェースカードの取扱説明書をご覧ください。



専用の通信ケーブルを接続して、当社の電源管理ソフトウェアを使用します。UPSとコンピュータの通信により、コンピュータで電源の管理をすることができます。詳細は、電源管理ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

電源管理ソフトウェアの状態・計測値履歴表示



以上で、UPSの設置・配線は終了です。

§ 7. UPS 運転前の準備

§ 7.1 UPS の設定値を確認する

① UPS の設定メニューの設定値を確認します。

「LCDパネル操作説明書 §3. UPSの設定をする」をご覧になり確認してください。

UPSは工場出荷時、「設定項目一覧表」の初期設定欄の「※」印の設定値に設定されています。

初期設定のままの状態
で、UPSをご使用になる場合

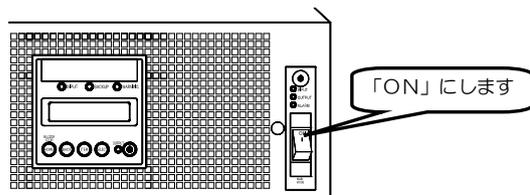


「§ 7.2 UPSを充電する」へ進みます。

設定値の初期設定がご使用の環境、用途、負荷の仕様などに合わない場合は、設定値を変更します。



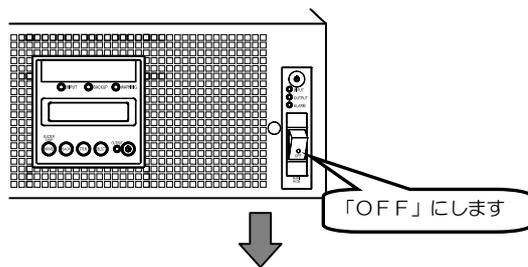
② UPS正面の **MAIN MCCB** を「ON」にします。



③ 設定値を変更します。

LCD操作説明書の各項目のページをご覧ください。

④ UPS正面の **MAIN MCCB** を「OFF」にします。



「§ 7.2 UPSを充電する」へ進みます。

ポイント

設定は、負荷機器を運転した後でも変更できます。

ただし、設定項目一覧表の設定項目の欄に「★」印のある設定項目はUPSの再起動が必要です。UPSを再起動する際には負荷機器の停止も必要になりますので、「UPS運転前の準備」の段階で設定することをおすすめします。

§ 7.2 UPS を充電する

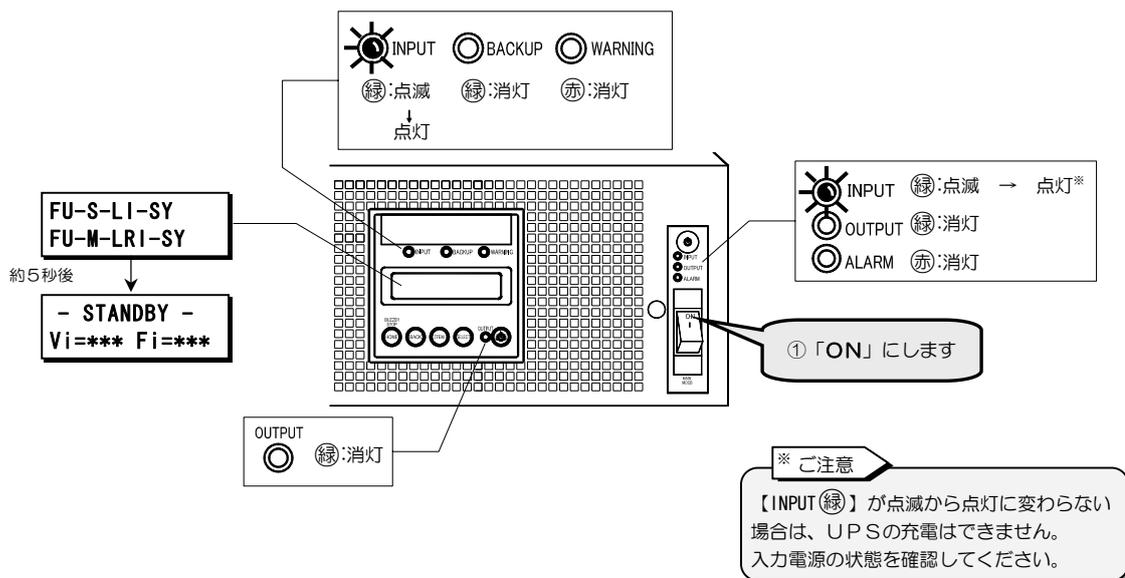
UPS の初起動時、または長時間使用しなかった場合には、次の手順で UPS に搭載されているバッテリーを 18 時間以上充電します。

必ず、負荷機器を運転する前に実施してください。

本文中のブレーカ、LED、LCD の図表示について

ブレーカは **MAIN MCCB** のように  でかこみ、LCD パネル、本体操作パネルの LED は【INPUT 】、【ALARM 】、LED の状態は 点灯：、点滅： のように表示されています。LCD 画面「***」には UPS の状態、計測値などが表示されます。

- ① UPS 正面の **MAIN MCCB** を「ON」にします。



- ② 【INPUT 】が点滅から点灯に変わったことを確認します。

自動的にバッテリーの充電が始まります。

- ③ 18 時間以上、このままの状態ですべて UPS を運転します。

充電時間について

停電時に確実にバックアップするためには 18 時間以上の充電が必要ですが、UPS を運転するとバッテリーは充電されますので、UPS の初起動時、十分に充電されていない場合でもご使用になれます。

ただし、この段階で停電が発生すると、UPS のバックアップ機能が十分に発揮されない場合があります。オプションの増設バッテリーをご使用の場合は、増設したバッテリーに応じた充電時間が必要です。増設バッテリーの取扱説明書をご覧ください。

以上で、UPS の充電は終了です。

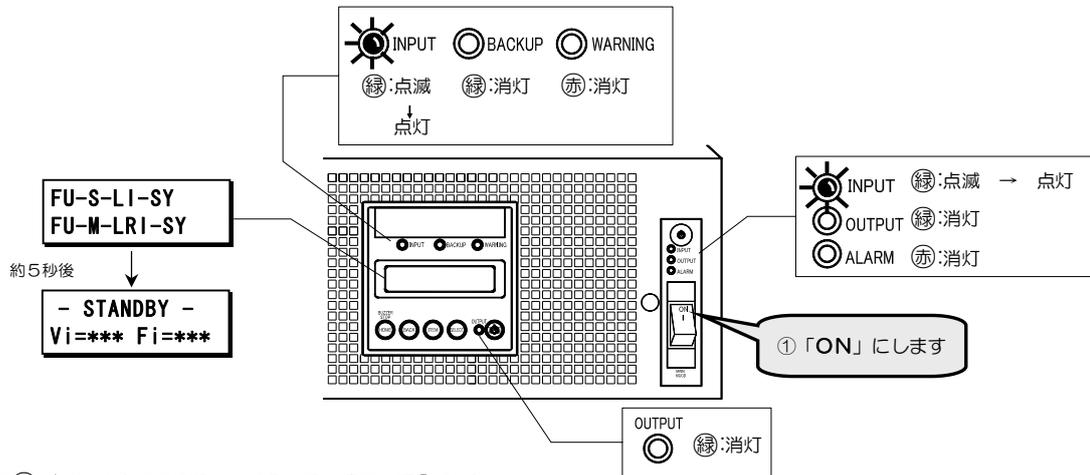
§ 7.3 UPSの停電動作テストをする

UPSが正しく機能しているか確認するために停電動作テストをしてください。

ポイント

「§ 7.2 UPSを充電する」から引き続き作業している場合は、手順①は必要ありません。

① UPS正面の **MAIN MCCB** を「ON」にします。

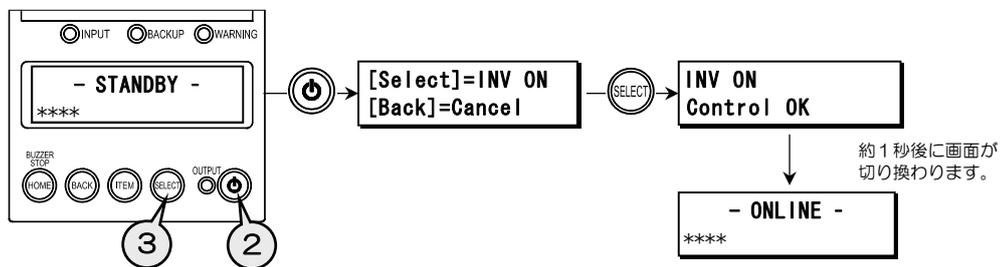


INPUT (緑)が点滅から点灯になったことを、確認して②に進みます。

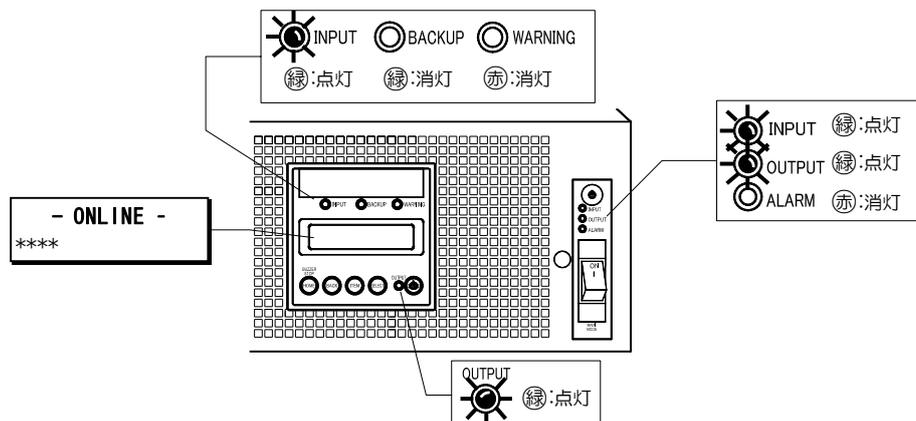
② (POWER) を押します。



③ (SELECT) を押します。

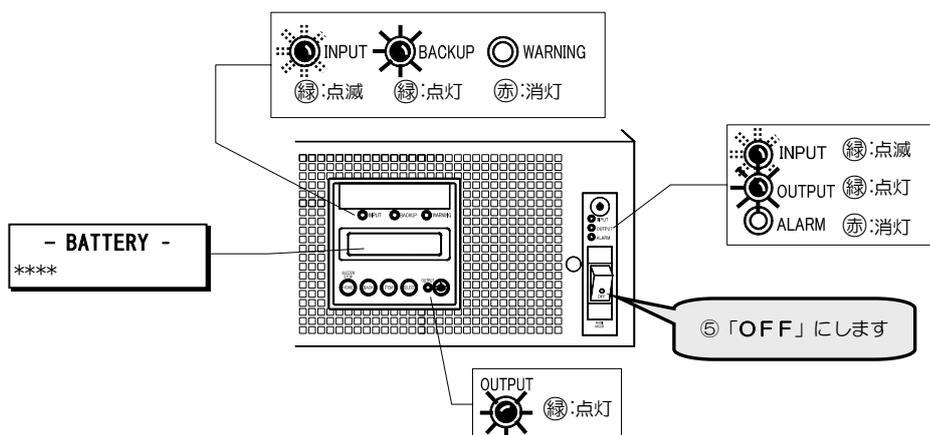


④ LCD表示とLEDが下図の状態になっていることを確認します。



⑤ MAIN MCCB を「OFF」にします。

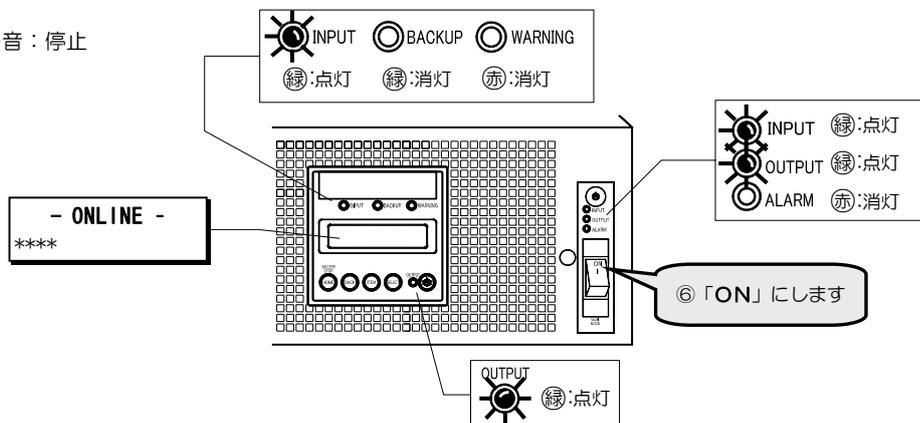
ブザー音：ピピ ピピ ピピ (継続)



⑥ MAIN MCCB を「ON」にします。

約5秒後、下記の状態になります。

ブザー音：停止



UPSが正常に機能している場合は、手順⑤、⑥に示すブザー音、LCD表示、LED状態になります。

停電動作テストが正常にならないときは・・・

下表で原因と対応を確認し、手順①から停電動作テストをやり直してください。

原因	対応
2個のバッテリーパックが正しく取り付けられていますか？	2個のバッテリーパックをセットします。 ⇒「§6.2 バッテリーパックの搭載、正面パネルの取り付け」。
強制バイパススイッチ Forced Bypass が「Bypass」側になっていませんか？	「Inverter」側にしてください。 ⇒「§6.2 バッテリーパックの搭載、正面パネルの取り付け」の手順⑨。
【OUTPUT(緑)】が消灯していませんか？	正確に、ON操作をしてください。 ⇒「§7.3 UPSの停電動作テストをする」の手順②、③。
【ALARM(赤)】【WARNING(赤)】が点灯していませんか？	購入先または当社へご連絡ください。

以上の対応をしても正常に動作しない場合、【ALARM(赤)】【WARNING(赤)】が点灯している場合は、購入先または当社へご連絡ください。

⑦ UPSが正常に動作したことを確認します。

以上で、停電動作テストは終了です。

§ 8. UPSの運転操作

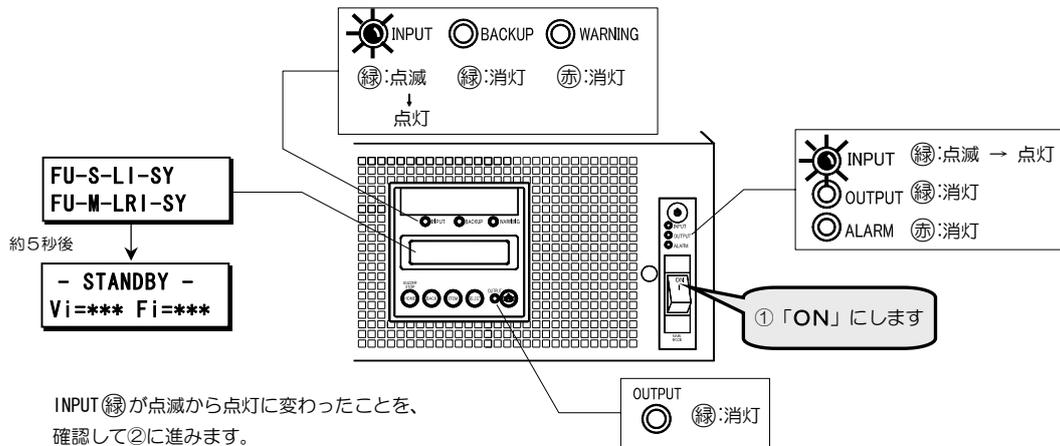
§ 8.1 UPSを運転する

つぎの手順でUPSを運転します。

本文中のブレーカ、LED、LCDの図表示について

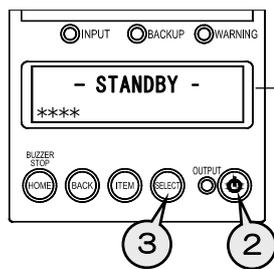
ブレーカは **MAIN MCCB** のように  でかこみ、
LCDパネル、本体操作パネルのLEDは【INPUT(緑)】、【ALARM(赤)】、
LEDの状態は 点灯：、点滅：
のように表示されています。
LCD画面「***」にはUPSの状態、計測値などが表示されます。

① UPS正面の **MAIN MCCB** を「ON」にします。



②  を押します。

③  を押します。



[Select]=INV ON
[Back]=Cancel

INV ON
Control NG

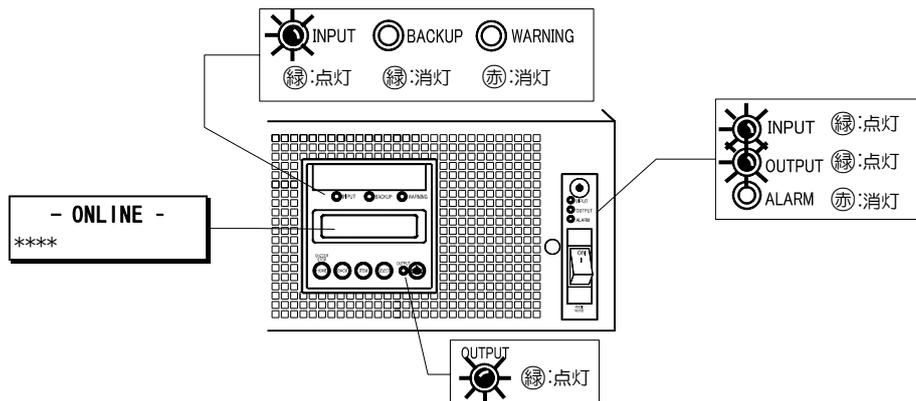
INV ON
Control OK

- ONLINE -

NGの場合：UPSが起動できない状態です。*1

OKの場合：UPSが正常に起動しました。

④ LCD表示とLEDが下图の状態になっていることを確認します。



手順④でUPSの起動を確認した後、負荷機器の電源を「ON」にします。 ※2

UPS起動時のご注意

- ※1. [CONTROL NG] が表示された場合は、入力電源異常などの原因によりUPSが起動できない状態になっています。LCDパネルのホームメニュー [STATUS] で状態を確認し、「§ 11. こんなときには・・・」をご覧ください。
- ※2. 負荷容量について
負荷機器の電源を「ON」にしたとき、LCD画面に [OVER LOAD] が表示され、ブザー音「ピピピピ ピピピピ」が鳴った場合は、UPSに接続されている負荷機器がUPSの定格容量を超えています。接続している負荷機器を減らしてください。

§ 8.2 UPSを停止する

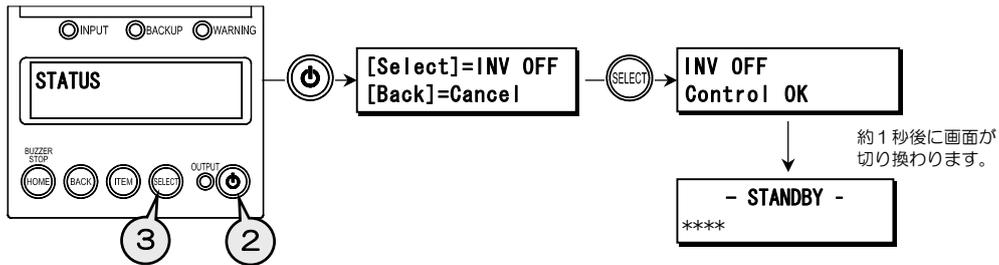
UPSを停止する場合は、つぎの操作をします。
UPSを停止する前に、必ず負荷機器を停止してください。

① LCDパネルのいずれかのキーを押して画面を表示させます。

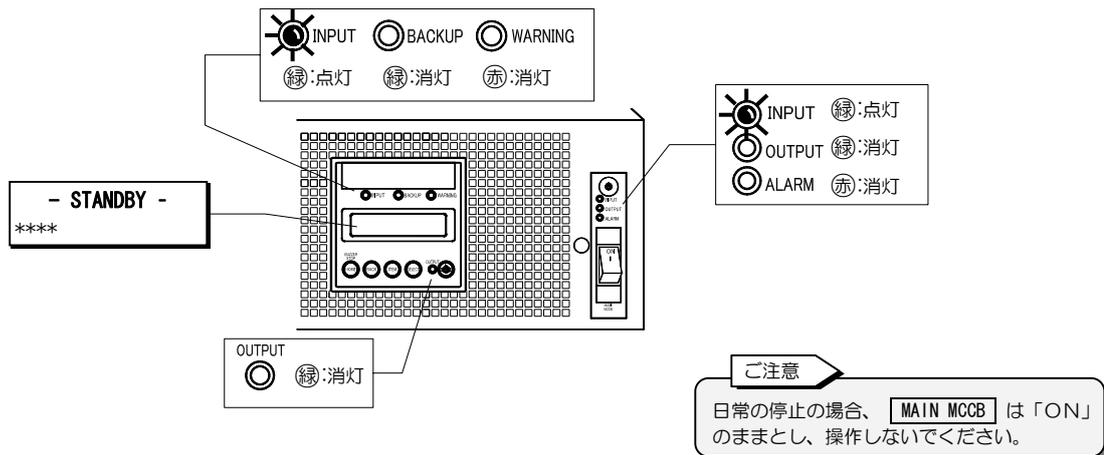
②  を押します。



③  を押します。



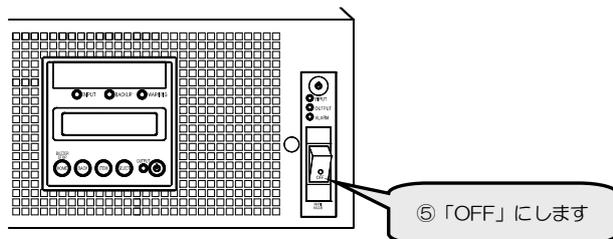
④ LCD表示とLEDが下図の状態になっていることを確認します。



1週間以上、UPSを使用しない場合は、手順⑤へ進みます。

⑤ **MAIN MCCB** を「OFF」にします。

LCDパネル、
LED
すべて消灯します。



ご注意

- UPSを運転したままで **MAIN MCCB** を「OFF」にすると停電と同じ動作となり、バッテリーを放電してしまいます。運転再開時にUPSのバックアップ機能を十分発揮できなくなりますのでご注意ください。
- 上記の操作でUPSを停止し、長期間UPSを保管する場合は、定期的にバッテリーの補充電を実施してください。補充電については、「§ 3.3 取り扱い上の注意(4)」をご覧ください。

§ 8.3 本体操作パネルで運転操作をする

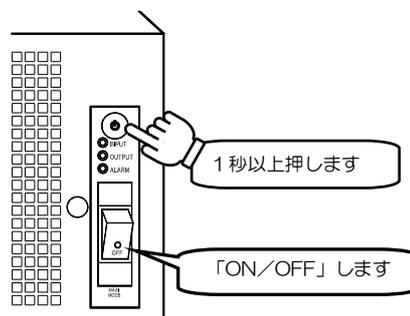
UPS正面右側の本体操作パネルで、UPSの起動/停止操作をすることができます。

起動操作

- ① UPS正面の **MAIN MCCB** を「ON」にします。
- ②  スイッチを1秒以上押します。

停止操作

- ①  スイッチを1秒以上*押します。
- ② 1週間以上使用しない場合は、UPS正面の **MAIN MCCB** を「OFF」にします。



※ご注意

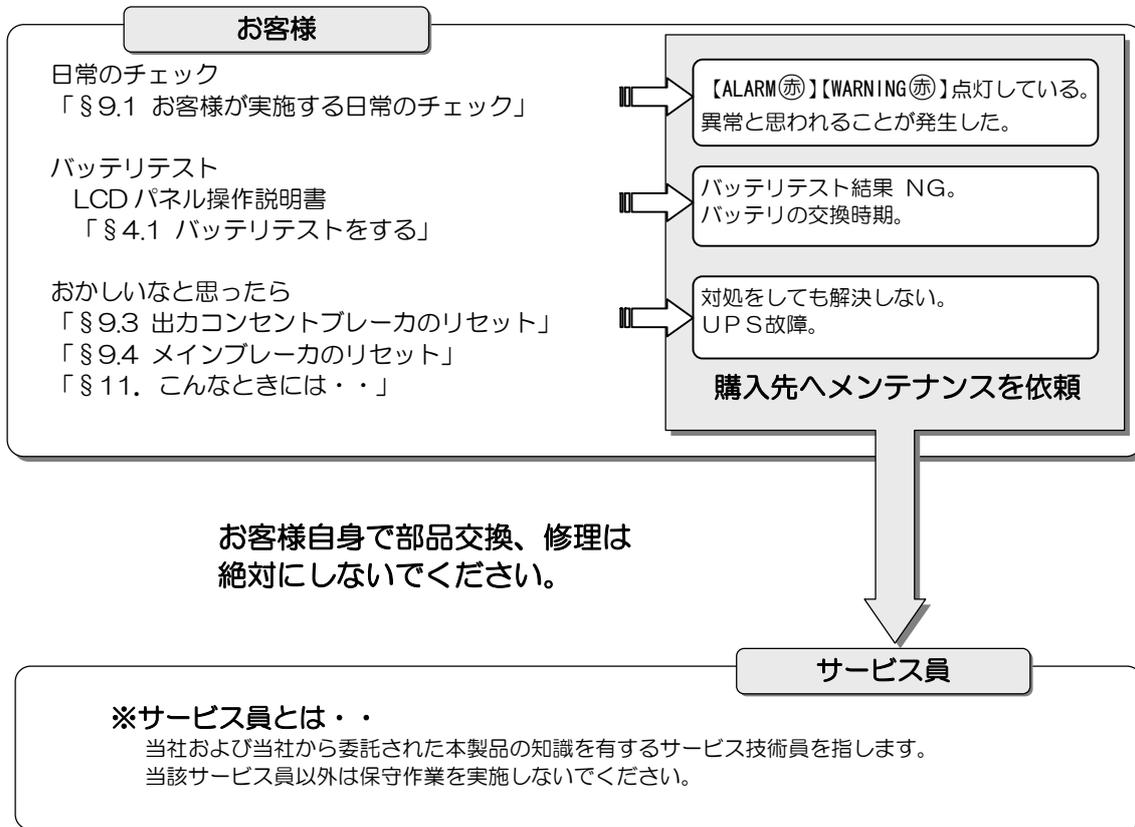
停止操作の場合のみ、LCDパネルの設定メニュー「UPS本体操作パネル  のOFF操作」の設定値により操作方法が異なります。詳細はLCDパネル操作説明書「§3.9 UPS本体操作パネル  のOFF操作を設定する」をご覧ください。

§ 9. UPSの点検・保守

 注 意	<ul style="list-style-type: none"> サービス員以外はUPS内部の点検・保守をしないでください。感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。 点検は、UPSを完全に停止させ入力電源を断ってから行ってください。感電のおそれがあります。 バッテリーが接続されており、電気部品は充電されていますので絶対に手を触れないでください。感電のおそれがあります。 バッテリーは定期的に交換してください。交換時期を過ぎたバッテリーは、火災の原因になることがあります。 	 
---	---	--

このUPSの期待寿命は10年です。ご使用期間中は定期的にバッテリーを交換してください。

お客様が実施する日常のチェックと、サービス員が実施する保守があります。お客様では実施できない項目がありますので、保守が必要なときは必ず購入先または当社へ依頼してください。



§ 9.1 お客様が実施する日常のチェック

注意

- UPS内部の点検は絶対にしないでください。感電、やけど、けが、発煙、発火のおそれがあります。
- UPSおよびUPS周辺の清掃の際にUPS背面のファンに触れないでください。けがのおそれがあります。
- 清掃には、濡れた布などを使用しないでください。感電のおそれがあります。
- 清掃の際に、UPSのコンセントに掃除機を接続しないでください。発煙、発火のおそれがあります。



日常、次の項目をチェックしてください。

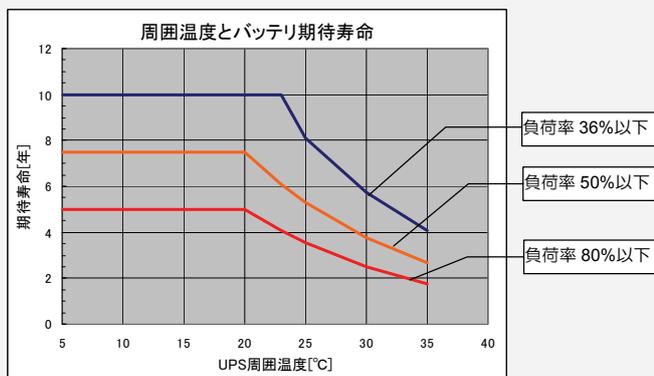
- ① LCDパネル、本体操作パネルの表示状況に異常はないですか？
⇒「§ 11. こんなときには・・・」をご覧ください。
- ② ブザーが鳴っていませんか？
⇒もしブザーが鳴っていたら、「§ 10. ブザーが鳴ったときは・・・」をご覧ください。
- ③ UPSの外観に傷や変形はないですか？
- ④ UPSから異音、異臭がしていませんか？
- ⑤ UPSの設置環境は適切な状態ですか？ 温度、湿度など指定された範囲内になっていますか？
⇒「§ 6.1.1 設置環境を確認する」で確認してください。
- ⑥ UPS正面、背面に指定されたスペースが確保されていますか？
ファンの吸排気用スペースがふさがれていると、UPS内部の温度が上昇し、故障の原因となります。
⇒「§ 6.1.2 設置スペースを確認する」で確認してください。
- ⑦ 吸気口やファン排気口についたゴミ、ホコリを除去してください。
ゴミなどが内部の部品につくと故障の原因となります。
- ⑧ 定期的にバッテリーバックアップ時間のテストをしてください。
LCDパネル操作説明書「§ 4.1 バッテリテストをする」をご覧ください。半年に1回を目安として、定期的にバッテリーバックアップ時間のテストをしてください。判定結果により、バッテリー交換の依頼をしてください。
自動で定期的にバッテリーテストを実施させる場合は、LCDパネル操作説明書「§ 3.14 バッテリテストのスケジュールを設定する」をご覧ください。工場出荷時、自動バッテリーテストは実施されないように設定されています。

周囲温度とバッテリー期待寿命についてのご注意

バッテリーは、周囲温度、放電回数など使用条件によって寿命が短縮されます。特に温度による影響は大きく、また、負荷率にも影響され、その関係は右記グラフのようになります。

寿命を過ぎて使用しますと、液漏れが発生し、最悪の場合は損傷のおそれがありますので、予防保全のためお早めに交換をお願いします。

長時間バックアップ対応機をお買い上げの場合は、増設バッテリーに添付されている取扱説明書をご覧ください。



§ 9.2 バッテリテストをする

バッテリーの状態をテストします。負荷を停止させることなく実施できます。

ただし、バッテリーテスト実施前の12時間以内にUPSがバックアップ運転をしていると、バッテリーテスト結果が異常になることがありますので、12時間以内にバックアップ運転をしていない状態で実施してください。



LCDパネル操作説明書「§ 4.1 バッテリテストをする」をご覧ください。

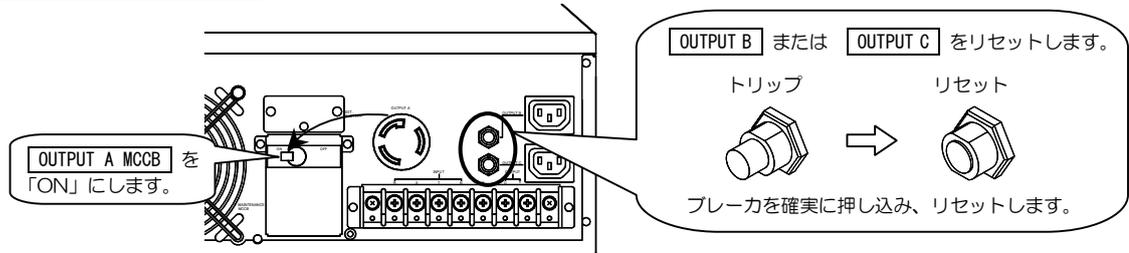
定期的に自動でバッテリーテストを実施させる場合は、LCDパネル操作説明書「§ 3.14 バッテリテストスケジュールを設定する」をご覧ください。自動バッテリーテストのスケジュールを設定してください。

§ 9.3 出力コンセントブレーカのリセット

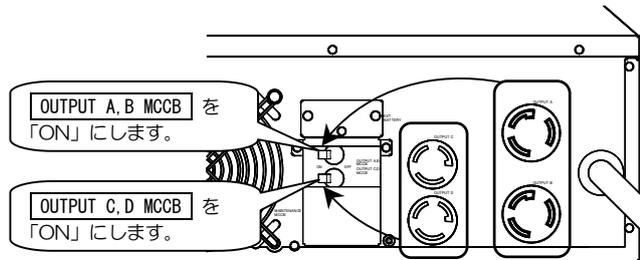
出力コンセントブレーカがトリップすると、トリップしたブレーカに対応するコンセントからの電力供給が停止します。つぎの手順でブレーカをリセットしてください。

- ① 接続されている負荷機器に異常がないか確認し、負荷容量を減らしてください。
- ② UPS背面のブレーカをリセットします。

端子台タイプの場合



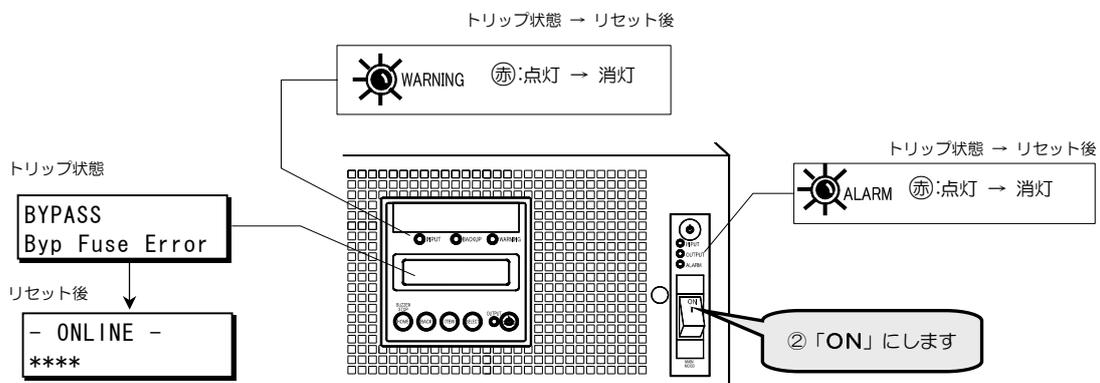
プラグタイプの場合



§ 9.4 メインブレーカのリセット

UPSに接続された負荷容量の合計がUPSの定格容量を超えると過負荷状態になり、メインブレーカがトリップします。メインブレーカがトリップすると電力供給が停止します。つぎの手順でブレーカをリセットしてください。リセット後、通常運転に戻ります。

- ① 接続されている負荷機器に異常がないか確認し、負荷容量を減らしてください。
- ② 本体操作パネルのメインブレーカを「ON」にします。
- ③ LCDパネル、本体操作パネルの表示が「§ 8.1 UPSを運転する」手順④の状態になっていることを確認します。



§ 10. ブザーが鳴ったときは・・・

ブザーが鳴ったときはUPSの状態に異常か変化があったときです。
ブザーの音を確認し、つぎの表をご覧になり対応してください。

ポイント

ブザーは  を押すと止まります。

ブザーの音	LCD表示	LED状態	UPS状態	対応
連続音 ビ—————	Total Unit# Err Fatal Error	ALARM (点灯) WARNING (点灯)	UPSの接続台数と設定値が異なっています。	接続台数を正しく設定してください。 LCDパネル操作説明書の「§ 3.19 並列接続するUPSユニットの台数を設定する」をご覧ください。
	Fatal Error	ALARM (点灯) WARNING (点灯)	UPSの故障です。	購入先または当社までご連絡ください。
	Byp Fuse Error	ALARM (点灯) WARNING (点灯)	【バイパス給電時】 MAIN MCCB がトリップ (OFF) しています。	負荷の容量、短絡の有無を確認してください。 負荷容量が多い場合は、接続されている負荷機器を減らし、MAIN MCCB を「ON」にしてください。 「§ 9.4 メインブレーカのリセット」をご覧ください。
	AUX2 Error	ALARM (点灯) WARNING (点灯)	補助電源の故障です	購入先または当社までご連絡ください。
	LCD Error	WARNING (点灯)	LCDパネルの故障です。	購入先または当社までご連絡ください。
	Batt Vol End	ALARM (点灯) WARNING (点灯)	バッテリー放電終了です。	商用電源が回復すると、LCDパネル設定メニュー「復電時の動作」の設定値によりUPSは自動的に起動します。 LCDパネル操作説明書「§ 3.7復電時の動作を設定する」をご覧ください。
2秒 ビビ 2回 ビビ 2回	Input Error Input Freq Err Input Vol Hi Input Vol Low	INPUT (点滅) BACKUP (点滅)	入力電圧、入力周波数に異常が発生しバッテリーから給電されています。	<ul style="list-style-type: none"> 入力電圧、入力周波数が定格範囲内であることを確認してください。 「§ 12.4 仕様」をご覧ください。 MAIN MCCB が「OFF」になっていませんか？ 「OFF」の場合は「ON」にします。
	Test Condition Testing	—	バッテリーテスト実行中です。	バッテリーテストが終了するまでお待ちください。 中止する場合はLCDパネル操作説明書「§ 4.1バッテリーテストをする」の中止手順をご覧ください。
連続 ビビビビビビビビ...	Batt Vol Low	INPUT (点滅) BACKUP (点滅)	バッテリー電圧が低下しています。	<ul style="list-style-type: none"> 入力電圧、入力周波数が定格範囲内であることを確認してください。 「§ 12.4 仕様」をご覧ください。 MAIN MCCB が「OFF」になっていませんか？ 「OFF」の場合は「ON」にします。
2秒 ビビビビ 4回 ビビビビ... 4回	Over Load	—	UPSの端子台、またはコンセントに接続されている負荷容量がUPSの定格容量を超えています。	UPSの端子台、コンセントに接続している負荷機器を減らしてください。
2秒 ビビビビビビ 7回 ビビビビビビ... 7回	Batt Vol Error	—	【UPSの起動時】 バッテリーが接続されていません。	「§ 6.2 バッテリーパックの搭載、正面パネルの取り付け」をご覧になりバッテリーパックを確実に取り付けてください。
	Last Result BATTST: NG BATTST: Suspended	—	【バッテリーテスト実施時】 バッテリーチェックの結果が異常です。	「§ 7.2 UPSを充電する」をご覧になり12時間以上充電した後、LCDパネル操作説明書「§ 4.1 バッテリーテストをする」をご覧になり、再度バッテリーテストをしてください。同じ結果の場合はバッテリーの交換が必要です。購入先または当社までご連絡ください。
2秒 ビビビビビ 5回 ビビビビビ... 5回	Batt Life Warn	—	バッテリーの余命があと半年です。	バッテリーの交換をおすすめします。 お早めに購入先または当社までご連絡ください。 ブザー音は  を押すと止まります。 UPSを起動するたびにブザー音は再現し、バッテリーが交換されるまで続きます。
	Batt Life End	—	バッテリーが寿命です。	バッテリーの交換が必要です。 購入先または当社までご連絡ください。 ブザー音は  を押すと止まります。 UPSを起動するたびにブザー音は再現し、バッテリーが交換されるまで続きます。

ご注意

その他、故障と思われることがおきましたら、購入先または当社までご連絡ください。

§ 11. こんなときには・・・

 注 意	<ul style="list-style-type: none"> サービス員以外はUPS内部の点検・保守をしないでください。感電、けが、やけど、発煙、発火などのおそれがあります。 点検は、UPSを完全に停止させ入力電源を断してから行ってください。感電のおそれがあります。 バッテリーが接続されており、電気部品は充電されていますので絶対に手を触れないでください。感電のおそれがあります。
---	---

UPSの状態を確認し、つぎの表をご覧になり対応してください。

UPS状態	LCD表示	LED状態	対 応
UPS起動時、ブザーが鳴った。	Batt Vol Error	—	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーパックが正しく搭載されていますか？ UPSをいったん停止し、「§6.2 バッテリーパックの搭載、正面パネルの取り付け」をご覧になりバッテリーパックを確実に搭載してください。バッテリーパックを搭載した後、UPSを再起動し、ブザー音が鳴らないことを確認してください。
UPSの出カコンセントまたは端子台から電力が供給されない。	—	OUTPUT  点灯	<ul style="list-style-type: none"> UPSに入力電源が正しく接続されていますか？ 「§6.3. UPSの配線」をご覧になり、正しく配線してください。 入力電圧、入力周波数が定格範囲内であることを確認してください。「§12.4 仕様」をご覧ください。 正しい手順で起動操作をしましたか？ 「§8.1 UPSを運転する」をご覧になり、正しい操作手順を確認してください。
	—	すべて消灯	<ul style="list-style-type: none"> MAIN MCCB は「ON」になっていますか？ 「§8.1 UPSを運転する」をご覧になり、正しい操作手順を確認してください。
	Input Error Input Freq Err Input Vol Hi Input Vol Low	INPUT  点滅	<ul style="list-style-type: none"> UPSの電圧が正しく設定されていますか？ LCDパネル操作説明書「§3.1 電圧を設定する」をご覧になり、設定を確認してください。 入力電圧、入力周波数が定格範囲内であることを確認してください。「§12.4 仕様」をご覧ください。
	-ONLINE-	OUTPUT  点灯	<ul style="list-style-type: none"> 出カコンセントブレーカがトリップしていませんか？「§9.3 出カコンセントブレーカのリセット」をご覧ください。
	Remote OFF	—	<ul style="list-style-type: none"> リモートOFF信号がONになっています。「§5.4 外部インタフェース」をご覧ください。
	EPO ON	—	<ul style="list-style-type: none"> EPO信号がONになっています。「§5.4 外部インタフェース」をご覧ください。
UPSの出カコンセントまたは端子台からの電力が停止しない。	-ONLINE-	OUTPUT  点灯	<ul style="list-style-type: none"> 正しい手順で停止操作をしましたか？ 「§8.2 UPSを停止する」をご覧ください。ただし、強制バイパススイッチの切り換え、過負荷、故障などによるバイパス運転中はバイパス給電が継続されます。 本体操作パネルの  で停止操作をした場合、設定値どおりの停止操作をしましたか？ LCDパネル設定メニュー「UPSのOFF操作」が「3 Sec.」（3秒）または「Unique」（特殊操作）に設定されていませんか？ LCDパネル操作説明書「§3.9 UPSの本体操作パネル  のOFF操作を設定する」をご覧になり設定値を確認してください。出荷時は「1 Sec.」（1秒）に設定されています。
	-BYPASS-	OUTPUT  点滅	<ul style="list-style-type: none"> LCDパネル設定メニュー「 OFF時のUPS給電状態」が「BYPASS」に設定されていませんか？ LCDパネル操作説明書「§3.11  OFF時のUPS給電状態を設定する」をご覧になり設定値を確認してください。出荷時は「OFF」に設定されています。
	何も表示されない	ALARM  点灯 他のLEDは 全て消灯	<ul style="list-style-type: none"> UPSの故障です。購入先または当社までご連絡ください。

UPS状態	LCD表示	LED状態	対応
運転中にUPSの出力コンセントまたは端子台からの電力が停止した。	-STANDBY-	INPUT ^緑 点灯	<ul style="list-style-type: none"> 誤操作などでLCDパネルの^緑 または、本体操作パネルの^緑 を押して「OFF」にしているませんか？正しい手順で「ON」にします。
	-ONLINE-	INPUT ^緑 点灯	<ul style="list-style-type: none"> UPS背面の出力コンセントブレーカがトリップしていませんか？過負荷や短絡状態により、ブレーカがトリップした可能性があります。負荷の容量、短絡の有無を確認してください。負荷容量が多い場合はUPSのコンセントまたは端子台に接続している負荷機器を減らしてください。「§9.3 出力コンセントブレーカのリセット」をご覧ください。
	-	INPUT ^緑 点灯	<ul style="list-style-type: none"> リモートOFF信号が入力されていませんか？「§5.4外部インターフェース」をご覧ください。外部コントロール端子が正しく接続されているかご確認ください。
	-	INPUT ^緑 点灯	<ul style="list-style-type: none"> EPO信号が入力されていませんか？「§5.4外部インターフェース」をご覧ください。外部コントロール端子が正しく接続されているかご確認ください。
停電時にUPSの出力コンセントまたは端子台からの電力が停止した。	-	-	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーが劣化していませんか？バッテリーの交換時期を確認してください。バッテリーの寿命は周囲温度で変化します。早めの交換をおすすめします。 12時間以内に停電が発生していませんか？バッテリーの残容量が少なくなっている可能性があります。UPSを十分に充電してください。
ブザーが鳴った。	-	-	<ul style="list-style-type: none"> UPSに状態変化・警告・異常が発生したとき、ブザーが鳴ります。「§10. ブザーが鳴ったときは・・・」をご覧ください。
ブザーが鳴らない。	-	-	<ul style="list-style-type: none"> LCDパネル設定メニュー「ブザー音」が「SILENT」（停止）に設定されていませんか？LCDパネル操作説明書「§3.8 ブザー音が鳴る条件を設定する」をご覧ください。設定値を確認してください。
LCDパネルに何も表示されない。	-	-	<ul style="list-style-type: none"> UPS本体とLCDパネルが接続ケーブルで正しく接続されていますか？「§6.2 バッテリーバックの搭載、正面パネルの取り付け」をご覧ください。
LCDパネルの操作ができない。	-	-	<ul style="list-style-type: none"> UPS本体とLCDパネルが接続ケーブルで正しく接続されていますか？「§6.2 バッテリーバックの搭載、正面パネルの取り付け」をご覧ください。
本体操作パネルのLEDが点灯しない。	-	すべて消灯	<ul style="list-style-type: none"> MAIN MCCB は「ON」になっていますか？「§8.1 UPSを運転する」をご覧ください。正しい操作手順を確認してください。
本体操作パネルの操作ができない。	-	ALARM ^赤 点灯	<ul style="list-style-type: none"> UPSの故障です。購入先または当社までご連絡ください。
バッテリー給電が継続し続ける。頻繁にバッテリー給電に切り換わる。	Input Error Input Freq Err Input Vol Hi Input Vol Low	BACKUP ^黄 点灯	<ul style="list-style-type: none"> 本体操作パネルの MAIN MCCB が「ON」になっていますか？「OFF」の場合は「ON」にしてください。（正常運転中に MAIN MCCB を「OFF」にすると商用電源異常と同じ動作になりバッテリー給電に切り換わります。） 入力電圧、入力周波数が定格範囲内であることを確認してください。「§12.4 仕様」をご覧ください。
バイパス給電からUPS給電（インバータ給電）に切り換わらない。	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 強制バイパススイッチ Forced Bypass が「Inverter」になっていることを確認してください。強制バイパススイッチ Forced Bypass は、UPSの正面パネルの内側にあります。正面パネルを外して確認してください。「§6.2 バッテリーバックの搭載、正面パネルの取り付け」の手順⑨をご覧ください。強制バイパススイッチが「Bypass」になっている場合は、「Inverter」側に、再度 ^緑 を押してUPS給電に切り換えてください。 LCDパネル設定メニュー「過負荷時の動作」で「Auto Ret BYP」に設定されている場合、過負荷時はバイパス給電に切り換わり、一定時間経過後、自動的にUPS給電へ切り換わります。過負荷状態が継続している場合は、再度バイパス給電へ切り換わり、この動作が繰り返されます。LCDパネル操作明書「§3.10 過負荷時の動作を設定する」をご覧ください。 LCDパネル設定メニュー「過負荷時の動作」で「Stay on BYP」に設定されている場合、過負荷状態が継続しているときはバイパス給電が継続されます。過負荷状態が解消されるとUPS給電に切り換わります。バイパス給電に切り換わったとき、商用電源の電圧が低く負荷電流が過負荷検出値以下の場合、UPS給電とバイパス給電の切り換えが繰り返されます。LCDパネル操作明書「§3.10 過負荷時の動作を設定する」をご覧ください。

UPS状態	LCD表示	LED状態	対応
バッテリーテストができない。	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 次の場合はバッテリーテストはできません。 <ol style="list-style-type: none"> ①インバータ停止中 ②バイパス給電中 ③バッテリー運転中 ④遠隔操作などによるシャットダウン動作中 ⑤UPS故障 ⑥非同期運転時
電源管理ソフトウェア使用時、シリアル通信状態が異常になる。	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • LCDパネル設定メニュー「インタフェース」が「WS」（ワークステーション）に設定されていますか？ LCDパネル操作説明書「§3.5 インタフェースを設定する」をご覧ください。出荷時は「WS」（ワークステーション）に設定されています。 • LCDパネル設定メニュー「通信ボーレート」が正しく設定されていますか？ LCDパネル操作説明書「§3.6 通信ボーレートを設定する」をご覧ください。出荷時は「9600bps」に設定されています。電源管理ソフトウェアと同じ値を設定してください。 • 通信ケーブルが正しく接続されていますか？コンピュータとUPSを正しく接続してください。
停電時の放電終止によるUPS停止後、復電時にUPSが自動で起動しない。	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • LCDパネル設定メニュー「復電時の動作」の設定値を確認してください。「STOP」に設定されているとインバータが自動起動しません。「BATT>30%」「BATT>50%」「BATT>80%」に設定されている場合は、バッテリーが設定した数値に充電されるまでUPSは起動しません。出荷時は「Auto」（自動）に設定されています。LCDパネル操作説明書「§3.7 復電時の動作を設定する」をご覧ください。
電源管理ソフトウェアのスケジュール運転で設定した時刻になってもUPSが自動で起動しない。	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 電源管理ソフトウェア ユーザガイド「UPS制御条件を設定する」の項目で「復電時、UPSを自動起動する」を選択し、指定値(%)に「10～90」の値を設定した場合、設定した値までバッテリーが充電されていないと、スケジュール起動時刻になってもUPSは起動しません。UPSをスケジュール運転する場合は、この指定値(%)を「0」に設定してください。詳細は電源管理ソフトウェア ユーザガイド「シャットダウン条件を設定する」をご覧ください。
【ALARM [Ⓢ] 】が点灯した。	—	ALARM [Ⓢ]	<ul style="list-style-type: none"> • 停電時、バッテリー放電終止の場合は【ALARM[Ⓢ]】が点灯します。これ以外の場合は、UPSに故障が発生しています。購入先または当社までご連絡ください。

ご注意

これらの対応をしても、正常に動作しない場合、その他、故障と思われることがおきましたら、購入先または当社までご連絡ください。

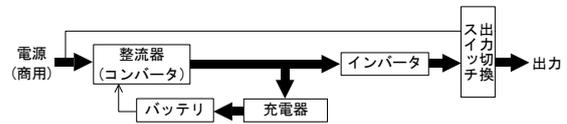
§ 12. UPSの特性

§ 12.1 基本動作

(1) 正常運転時

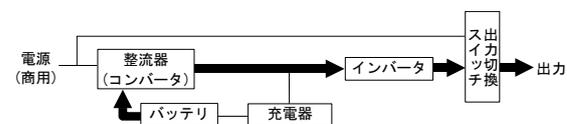
常時は商用電源を受電し、整流器で直流電力に変換後、さらにこの直流電力をインバータで商用電源と同期した交流電力に逆変換して、安定した電力を負荷に供給します。バッテリーは充電器にて常時浮動充電され、商用電源の異常（停電、電圧降下など）に対して待機しています。

正常運転状態のときは、電源管理ソフトウェアのメイン画面で、（DOUBLE CONVERSIONモード）と表示されます。



(2) 商用電源異常時

商用電源に異常または停電が生じた場合は、整流器および充電器は停止しますが、バッテリーからの直流電力によりインバータが運転を継続し、負荷には瞬時の中断もない電力を供給します。この時バッテリー運転ブザーが鳴り、【INPUT (⊕)】が点滅します。



(3) バッテリー電圧低下時

商用電源の異常または停電が続き、バッテリー電圧が約178V以下になると、ブザーが鳴り、LCD画面に「Batt Vol Low」が表示されます。

(4) 商用電源復帰

商用電源が正常に回復すると整流器および充電器は運転を再開し、自動的に12.1(1)に示した正常運転の状態に戻ります。

(5) 長時間停電

停電が長時間続いてバッテリー電圧が放電終止電圧約168Vに達すると、バッテリーの過放電を防止するため保護回路が動作してインバータを停止します。なお、インバータ自動停止後、商用電源が正常に回復すると、自動的に*に運転を再開し、12.1(1)に示した正常運転時の運転状態に戻ります。

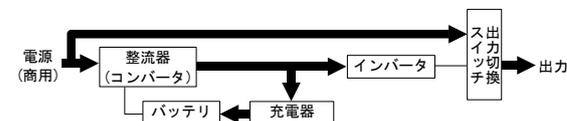
* LCDパネル設定メニューで「復電時の動作」を「STOP」に設定している場合は、インバータ出力は停止したままで待機します。

§ 12.2 保護動作

(1) 過負荷時

コンピュータなどの始動時に、大きな電流が流れ、インバータの容量を超える過負荷状態になると、自動的に出力切換スイッチが動き、無瞬断でインバータ給電からバイパス給電に切り換わります。過負荷状態が解消されると、インバータ給電に切り換わり常時の状態に戻ります。

* LCDパネル設定メニューで「過負荷時の動作」を「Auto Ret BYP」に設定している場合は、一定時間を経て、自動的に無瞬断でインバータ給電に切り換わり常時の状態に戻ります。



(2) UPS故障時

万が一、UPSに故障が発生した場合は、自動的に出力切換スイッチが動き、無瞬断でインバータ給電からバイパス給電に切り換わります。このとき【ALARM (⊕)】が点灯し、ブザーが鳴ります。電力供給経路は過負荷時と同じです。

UPS故障によるバイパス給電中に停電が発生すると出力が停止します。購入先または当社へ連絡してください。

§ 12.3 保護動作表

UPS保護のため、下表の保護動作・機能があります。

LED点灯：
 LED点滅：
 警報ブザー：①～⑥
 転送信号送出：○

をします。

項目	LCDパネル、本体操作パネルの表示						警報 ブザー ※2	転送信号：接点信号出力						保護動作 (UPSの動作)	備考
	INPUT 	OUTPUT 	BACKUP 	WARNING 	ALARM 	LCD表示 ※1		交流 入力 異常	バッテリ 電圧 低下	交流 出力	インバータ 出力	バイパス 出力	装置 異常		
準備		—	—	—	—	-STANDBY- *****	—	—	—	—	—	—	—	整流器、 充電器運転	受電
正常			—	—	—	-ONLINE- *****	—	—	—	○	○	—	—	インバータ運転	受電
重大故障			—			-SYS FAILURE- *****	①	—	—	○	—	○	○	整流器、充電器、 インバータ停止 バイパス給電	—
過負荷			—	—	—	-BYPASS- *****	④	—	—	○	—	○	—	バイパス給電	—
強制 バイパス			—	—	—	-BYPASS- *****	—	—	—	○	—	○	—		バイパス運転に 手動切り換え
入力過電圧				—	—	-BATTERY- *****	②	○	—	○	○	—	—	整流器、 充電器停止 インバータ運転継続	バッテリー運転
入力過電圧 (長時間、 バッテリー電圧低下)				—	—	-BATTERY- *****	③	○	○	○	○	—	—		
停電				—	—	-BATTERY- *****	②	○	—	○	○	—	—		
停電 (長時間、 バッテリー電圧低下)				—	—	-BATTERY- *****	③	○	○	○	○	—	—		
入力異常 (周波数)				—	—	-BATTERY- *****	②	○	—	○	○	—	—		
入力異常 (長時間、 バッテリー電圧低下)				—	—	-BATTERY- *****	③	○	○	○	○	—	—		
バッテリー放電終止			—			-BYPASS- *****	①	○	—	○	—	○	—	インバータ停止 バイパス給電	—
バッテリー異常			—	—	—	-*****- Batt Vol Error	⑥	—	—	○	○	○	○	インバータ運転	バッテリー 未接続
バッテリー 余命警告			—	—	—	-*****- Batt Life Warn	⑤	—	—	○	○	—	—		—
バッテリー 寿命			—	—	—	-*****- Batt Life End	⑤	—	—	○	○	—	—		—

※1. LCD表示の「*****」には、UPS状態などが表示されます。

※2. ブザー音の種類

- ① ピ ————— 連続
- ② ピピ……ピピ……
- ③ ピピピピピピピ…… 連続
- ④ ピピピピ……ピピピピ……
- ⑤ ピピピピピ……ピピピピピ……
- ⑥ ピピピピピピ……ピピピピピピ……

「§ 10. ブザーが鳴ったときは・・・」を参照してご対応ください。

故障時は購入先または当社までご連絡ください。



§ 12.4 仕様

項目	規格または特性		備考		
	端子台タイプ	プラグタイプ			
カナ品名	FU-S5-LIM-S2S2-005-T-A-SY-UPS	FU-S5-LIM-S2S2-005-C-A-SY-UPS			
出力容量	5 kVA/4.5kW				
冷却方式	強制空冷				
交流入力	入力端子	端子台 M6	プラグ NEMA L6-30P		
	相数	単相2線			
	電圧	200V, 208V, 220V, 230V, 240V (許容変動範囲: -40%~+15%)		設定変更可能、定格値は出力電圧と同一 出荷時: 200V ※1	
	周波数	50Hzまたは60Hz		自動判別、固定の選択可能、出荷時: 自動判別 ※2	
	所要容量	5.5kVA		バッテリー回復充電時の最大容量	
	入力力率	0.95以上		入力電圧定格時 ※3	
交流出力	出力端子	端子台 M6 NEMA L6-30R ×1 IEC-C13 ×2	NEMA L6-30R ×2 NEMA L6-20R ×2		
	相数	単相2線			
	電圧	200V, 208V, 220V, 230V, 240V		出荷時: 200V	
	電圧精度	定格電圧 ±2%以内			
	周波数	50Hzまたは60Hz		入力周波数と同じ(自動選択)	
	周波数精度	定格周波数±1,3,5%以内		1,3,5% 設定変更可能 出荷時: 3% ※4 UPS自走運転時: ±0.5%以内	
	電圧波形	正弦波			
	電圧波形歪率	線形負荷時: 3%以下 整流器負荷時: 8%以下		定格出力時	
	過渡電圧変動	負荷急変時	定格電圧 ±5%以内		0⇄100%変化または出力切換
		停電・復電時			定格出力時
		入力電圧急変			±10%変化
	負荷力率	0.9 (遅れ)		変動範囲0.7(遅れ)~1.0	
	過電流保護動作	110%以上でバイパス回路へ自動切換		オートリターン機能付 ※5	
過負荷耐量	インバータ	110% (1分間) / 118% (瞬時)			
	バイパス	200% (30秒) / 800% (2サイクル)			
バッテリー	方式	小形制御弁式鉛蓄電池			
	数	16個 (12V/1個)		16個直列	
	定格容量	7Ah/個		10時間率	
	バックアップ時間	負荷力率0.8の場合: 5分		周囲温度25℃、初期値 ※6	
発生熱量	339W		定格出力時		
入力漏洩電流	4mA以下				
周囲条件	周囲温度: 0~40℃ 相対湿度: 20~90%		結露しないこと ※7		
騒音	45 dB以下		UPS正面1m、A特性		

※1. 負荷率により交流入力の許容電圧範囲は下表のようになります。

UPS	負荷率	70%以下の場合	70%を超える場合
端子台タイプ		-40%~+15%	-20%~+15%
プラグタイプ		-40%~+15%	-10%~+15%

負荷率 70%以下の場合、電圧異常検出値は-40%、復電検出値は、端子台タイプ: -20%、プラグタイプ: -10%となります。

※2. 入力周波数の許容範囲は、自動判定設定時: ±8%、固定設定時: 40Hz~120Hzです。許容範囲外から復帰するときは、どちらに設定した場合も±8%です。インバータは、入力周波数が周波数同期追従範囲で設定した値(±1%, ±3%, ±5%)の範囲内にないと起動しません。

※3. 入力電圧波形歪率が1%未満の場合。

※4. 自動判定設定時は、周波数追従範囲を±1%, ±3%, ±5%から選択できます。

周波数固定設定時は、入力周波数にかかわらず出力周波数は設定した周波数(50または60Hz)に固定されます。

※5. 交流入力周波数が定格周波数の範囲にあり、かつ交流入力電圧が定格電圧範囲内にあるとき、インバータは交流入力周波数と同期し、無瞬断切り換え可能となります。

※6. バックアップ時間が長時間のUPSは上記仕様と一部異なります。増設バッテリー仕様の取扱説明書をご覧ください。

※7. バッテリーを搭載していますので、30℃を超える環境で使用すると、バッテリー寿命が著しく短くなります。

§ 13. UPSの保証について

日本国内向け保証規定 1年

1. 上記の指定地域において、製品購入日から指定期間内の部品および製造上の不具合による電氣的故障を保証いたします。
2. 当社が認めた部品および製造上の不具合による電氣的故障の場合は、修理または同等機能を有する装置と無償で交換いたします。
3. 当社から供給された装置に、当社以外による改造もしくは変更がなされている場合は保証いたしません。
4. 当社から供給された装置が正常な使用条件のもとで使用されていない、または取扱説明書の指定にしたがって使用されていない場合は保証いたしません。
5. 船舶など、振動が加わる可能性がある環境下で使用される場合には適用されません。
6. 定期的にバッテリーを完全に放電させるなどの特殊な運用で使用される場合には適用されません。
7. 当社から供給された装置が不適切に設置、導入されている場合は保証いたしません。
8. この保証は事故または悪用、誤用による損害には適用されません。
9. 火災・地震・風水害・落雷およびその他の天災地変、公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧や指定外の電源使用などによる故障および損傷は保証いたしません。
10. お客様による輸送、移動時の落下、衝撃等、およびお取り扱いが適正でないために生じた故障および損傷は保証いたしません。
11. この保証規定は当社の指定した機器について保証するものであり、指定されていない機器については適用されません。
12. 当社は負荷機器のソフトウェア損害、データ損害、および失われた利益・機会については一切責任を負いません。
13. 本製品に接続されている当社以外の機器に起因する故障・損害には適用されません。

■ NTTファシリティーズグループの営業ネットワーク

◎株式会社NTTファシリティーズ

●E-mail info@ntt-f.co.jp

●URL <http://www.ntt-f.co.jp>

本社営業本部	108-0023	東京都港区芝浦 3-4-1 グランパークタワー	03-5444-5000
関西事業本部	550-0001	大阪市西区土佐堀 1-4-14 アーバンエース肥後橋ビル	06-6446-7411
北陸支店	920-0024	金沢市西念 3-5-1 NTTコミュニケーションズ金沢西念ビル	076-222-4720
四国支店	790-0808	松山市若草町 3-6 NTTコムウェア松山ビル	089-934-1920
北海道支店	060-0042	札幌市中央区大通西 7-3-1 エムズ大通ビル	011-272-7900
東北支店	984-8519	仙台市若林区五橋 3-2-1 NTT五橋第2ビル	022-214-3571
東海支店	456-0016	名古屋市熱田区五本松町 7-30 熱田メディアウイング	052-683-4655
中国支店	730-0004	広島市中区東白島町 14-15 NTTクレド白島ビル	082-222-5111
九州支店	812-0011	福岡市博多区博多駅前 1-17-21 NTTデータ博多駅前ビル	092-436-8118
神奈川支店	220-0012	横浜市西区みなとみらい 4-7-3 横浜メディアタワー	045-226-7710
千葉支店	261-0023	千葉市美浜区中瀬 1-6 NTT幕張ビル低層棟	043-350-1710
埼玉支店	330-0081	さいたま市中央区新都心 5-2 ポルト小池ビル	048-714-3001
中央支店	108-0023	東京都港区芝浦 3-4-1 グランパークタワー	03-5444-5295